

法令全書

臺灣總督府令

○臺灣總督府令第一號（官報一月十八日）
臺灣度量衡條例施行規則左ノ通相定ム

明治三十四年一月四日

臺灣度量衡條例施行規則

第一章 度量衡器ノ制限

第一條 度量衡器ノ種類、形狀、物質ハ左ニ掲クルモノニ限之ヲ適法ノモノトス



臺灣總督男爵兒玉源太郎

形狀	物質	種類	寸法	容量	種類	寸法	容量
直形	金屬、象牙、骨、竹、木	直尺	十二尺以下		四「メートル」以下		
直角形	金屬	曲尺	長三尺以下		長「メートル」以下		
連接直形	金屬、象牙、骨、竹、木	骨尺	十五尺以下		五「メートル」以下		
鐘狀	金屬	鐘	十八尺		十「メートル」		
細帶狀	金屬、平麻布、竹	卷尺	六十尺		二十「メートル」		
			百五十尺以下		五十「メートル」以下		

形狀	物質	種類	寸法	容量	種類	寸法	容量
一	勻	秤	七、四、五	立方分	二「センチメートル」	徑「センチメートル」	一、八、五、〇、〇、一
二	勻	秤	五、三、八	立方分	二「センチメートル」	徑「センチメートル」	一、三、四、〇、〇、二

明治三十四年一月 臺灣總督府令 第一號 臺灣度量衡條例施行規則

72513

圓錐形	圓錐形									
	楢桶		花柏(楹)		扁柏(楹)		鐵業		金器	
一	五斗	二升	一升	五合	二合	二合	五合	二合	二合	二合
圓錐形ノ 以下ノ サノ一 倍深本	九三、八〇	七四、四五	五四、八六	三四、五六	二七、四三	二二、五〇	一六、〇〇	一三、七〇	一〇、〇〇	八、〇〇
	六四八、二七〇	三三三、三五〇	二二九、六五〇	一四八、七五〇	一〇八、七〇	八六、〇	六三、四	四九、三	三九、九	三〇、〇
	二〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇

圓錐形	圓錐形	圓錐形	圓錐形	方形		圓錐形		圓錐形	
				楢桶	花柏(楹)	扁柏(楹)	楹	花柏(楹)	扁柏(楹)
一	五斗	二升	一升	五合	二合	二合	五合	二合	二合
圓錐形ノ 以下ノ サノ一 倍深本	九三、八〇	七四、四五	五四、八六	三四、五六	二七、四三	二二、五〇	一六、〇〇	一三、七〇	一〇、〇〇
	六四八、二七〇	三三三、三五〇	二二九、六五〇	一四八、七五〇	一〇八、七〇	八六、〇	六三、四	四九、三	三九、九
	二〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇

明治三十四年一月 臺灣總督府令 第一號 臺灣度量衡條例施行規則

圓錐形 及錐形	銅錐鐵錐 (十匁及五十匁ヲ除ク)	三百匁 五百匁 一匁二匁	百「グラム」 二百「グラム」 五百「グラム」
板狀又ハ線狀	同(鐵ヲ除ク)	一毛 二毛 五毛 一厘 二厘 五厘 一分 二分	十「キログラム」 二十「キログラム」 五十「キログラム」 一「キログラム」 二「キログラム」 五「キログラム」 十「キログラム」 二十「キログラム」 五十「キログラム」

物 質 種 類

金 屬 秤 秤 秤 秤

金 屬 象 牙 骨 黒 檀 紫 攪 磁 呀 陶 治 一 桿 秤

第二條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ但分銅ハ内減ヲ許サス 度量器ノ公差

(一) 曲リ尺、縫尺並ニ金屬製直尺、疊尺及卷尺			
全長	目盛	全長	目盛
一尺未満	〇.五〇	五「デシメートル」未満	〇.二
一尺以上	〇.七五	五「デシメートル」以上	〇.三
二尺未満	一.五〇	一「メートル」マテ	〇.四
二尺以上	二.二五	二「メートル」以下	〇.七
五尺以上	五.〇〇	五「メートル」以下	一.五
十二尺未満	一〇.〇〇	七「メートル」未満	二.五
十二尺以上	一五.〇〇	十「メートル」以上	五「センチメートル」以上
三十尺未満	二〇.〇〇	全長ノ千分ノ一	一五.〇
三十尺以上	二五.〇〇	全長ノ千分ノ一	二〇.〇
(二) 竹、木、骨、象牙製直尺並ニ疊尺			
一尺未満	〇.五	五「デシメートル」未満	〇.三
一尺以上	一.五	五「デシメートル」以下	〇.五
二尺未満	三.〇	一「メートル」マテ	〇.七
二尺以上	四.五	二「メートル」以下	一.五
五尺以上	一二.〇	五「メートル」以下	二.五
十二尺未満	二五.〇	七「メートル」未満	五.〇
十二尺以上	三七.五	十「メートル」以上	一五.〇
三十尺未満	五〇.〇	全長ノ千分ノ一	二五.〇
三十尺以上	七五.〇	全長ノ千分ノ一	三〇.〇

(三) 革、麻布及竹製卷尺			
全長	目盛	全長	目盛
一尺未満	〇.五	五「デシメートル」未満	〇.三
一尺以上	一.五	五「デシメートル」以下	〇.五
二尺未満	三.〇	一「メートル」マテ	〇.七
二尺以上	四.五	二「メートル」以下	一.五
五尺以上	一二.〇	五「メートル」以下	二.五
十二尺未満	二五.〇	七「メートル」未満	五.〇
十二尺以上	三七.五	十「メートル」以上	一五.〇
三十尺未満	五〇.〇	全長ノ千分ノ一	二五.〇
三十尺以上	七五.〇	全長ノ千分ノ一	三〇.〇

(一) 容量ノ公差			
水製、鐵製及二升又ハ五「リットル」以上ノ金屬製	一合又ハ二「デシリットル」以下	一合又ハ二「デシリットル」以下	全量ノ百分ノ一
五「リットル」以上ノ金屬製	二升又ハ五「リットル」以下	二升又ハ五「リットル」以下	全量ノ百分ノ一
二升又ハ五「リットル」以下	一斗又ハ二「リットル」以下	一斗又ハ二「リットル」以下	全量ノ百分ノ一

斗	概	秤ノ目盛並ニ感量	
		一升以下	一升以上
一	分	0.05	0.1
二	分	0.1	0.2
三	分	0.15	0.3
四	分	0.2	0.4
五	分	0.25	0.5
六	分	0.3	0.6
七	分	0.35	0.7
八	分	0.4	0.8
九	分	0.45	0.9
十	分	0.5	1.0
十一	分	0.55	1.1
十二	分	0.6	1.2
十三	分	0.65	1.3
十四	分	0.7	1.4
十五	分	0.75	1.5
十六	分	0.8	1.6
十七	分	0.85	1.7
十八	分	0.9	1.8
十九	分	0.95	1.9
二十	分	1.0	2.0

斗	概	秤ノ目盛並ニ感量	
		一升以下	一升以上
一	分	0.05	0.1
二	分	0.1	0.2
三	分	0.15	0.3
四	分	0.2	0.4
五	分	0.25	0.5
六	分	0.3	0.6
七	分	0.35	0.7
八	分	0.4	0.8
九	分	0.45	0.9
十	分	0.5	1.0
十一	分	0.55	1.1
十二	分	0.6	1.2
十三	分	0.65	1.3
十四	分	0.7	1.4
十五	分	0.75	1.5
十六	分	0.8	1.6
十七	分	0.85	1.7
十八	分	0.9	1.8
十九	分	0.95	1.9
二十	分	1.0	2.0

第三條 度量器ノ目盛ハ割目ノモノヲ除クノ外度ノ名稱ノ二分ノ一又ハ一倍、二倍、五倍タルヘシ但
間ノ目盛ハ本項規定ノ外其十分ノ一、百分ノ一トナスコトヲ得
玻璃製枘ノ目盛ハ量ノ名稱ノ一倍、二倍又ハ二分ノ一、五分ノ一、十分ノ一、二十分ノ一タルヲ要

秤ノ目盛ハ衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若ハ此倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但斤ノ目盛ハ本項規定ノ
外其二分ノ一、四分ノ一、五分ノ一、八分ノ一、十分ノ一、十六分ノ一、三十二分ノ一トナスコトヲ得
第四條 度量器ハ表面ニ其全長ヲ表記スヘシ但函ニ連結シタル卷尺ハ其函ニ表記スルコトヲ得
割目ヲ盛リタル度量器(縮尺)ハ全長ノ外其目盛ノ割合ヲ表記スヘシ表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘ
間ノ二千分ノ一ニ相當スル目盛ノモノハ
1
2000 又ハ 間 1/2000 又ハ二千分ノ一間又ハ
二千分ノ一間

鏈尺ハ其一端ノ環ニ其全長ヲ表記シ且別種ノ金屬片ヲ以テ各自盛ノ標識トスヘシ
卷尺ハ其一端ニ真鍮片又ハ白銅片ヲ附著シ證印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ
竹製卷尺ノ接續ハ切り缺キ繼キ又ハ留銀ヲ以テシ且其上ヲ真鍮線ニテ緊縛スヘシ
第五條 枘ハ外側ニ其全量ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其種類ノ大中小ヲ表記スヘシ
第六條 木製ノ枘ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被ヒ且圓錐形一升及ニ「リットル」以上ノモノハ一箇又ハ交
又ニ「メル」二箇ノ鐵帶ヲ側及底ノ外面ニ沿テテ附著シ方形一升ノモノニハ其側及底ノ四隅ノ外面
ニ鐵帶ヲ附著スヘシ但酒酢、醬油、食鹽等ノ如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用ニル枘ハ此限ニ
アラス
鐵板又ハ鐵帶ヲ枘ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テスルトキハ其捨戻ヲ爲シ得サル寸釘頭ヲ削去スヘ

斗概ハ鐵葉ヲ以テ其側面ヲ包ムヘシ但第一項但書ノ枱ニ附屬スル斗概ハ此限ニアラス

第七條 鐵葉ヲ以テ五合及「リットル」以上ノ枱ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスヘシ

第八條 銅、真鍮又ハ鐵ヲ以テ製作スル枱ハ其内面ニ錫又ハ「ニツケル」ヲ鍍著スルヲ要ス

第九條 枱ニハ注口、把手及趾ヲ附スルコトヲ得

注口ヲ附スルトキハ其容量ノ割合ニ應シ枱ノ深サヲ減スヘシ

注口ノ口面ハ枱ノ上面ト其高サヲ同一ニスヘシ但玻璃製ノモノハ此限ニアラス

第十條 秤ハ其支點ニ於ケル最大掛量ヲ秤量トシ之ニ對シ少クモ左ノ定限ノ量ヲ感スルコトヲ要ス但一支點ニ對シ二段以上目盛シタル桿秤ハ一段毎ニ其秤量及感量ヲ定ムヘシ

天秤 秤量ノ千分ノ一

臺秤 秤量ノ二千分ノ一

桿秤 秤量ノ二百分ノ一 但秤量ニ百五斤又ハ八五キログラム以下ニシテ金屬ニアラサルモノハ秤量ノ百分ノ一

第十一條 臺秤及桿秤ノ目盛ハ左ノ定限以內トス但其感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

臺秤 秤量ノ二千分ノ一

桿秤 秤量ノ二百分ノ一 但秤量ニ百五斤又ハ八五キログラム以下ニシテ金屬ニアラサルモノハ秤量ノ百分ノ一

第十二條 臺秤ハ秤量十貫若ハ六十斤又ハ三十キログラム以上ノモノニ限ル

第十三條 調子玉アル秤ニシテ支點二箇以上ヲ設ケタルモノハ其支點毎ニ直點ヲ附スルヲ要ス

第十四條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒ニ限ル其二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スルヲ要ス

第十五條 秤ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用非緒紐ニハ金屬、革又ハ強韌ナル絹絲、麻絲ヲ用

井ルヲ要ス

第十六條 桿秤ノ皿ハ分銅ノ物質ト同一ノモノ(鐵ヲ除ク)ニ限ル但秤重五十匁又ハ二百「グラム」以下ノモノニハ玻璃ヲ用非ルコトヲ得

前項但書ノ皿ニ銅又ハ真鍮ヲ用非ルトキハ「ニツケル」ヲ鍍著スルヲ要ス

第十七條 錘及増錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但其重量五十匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニアラサルハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十八條 分銅、錘及増錘ノ重サヲ齊整スル爲鉛ヲ用非ルトキハ其一部ヲ穿テ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片(鐵ヲ除ク)ヲ以テ之ヲ緊塞スヘシ但鉛ノ量ハ分銅、錘及増錘ノ重サノ二十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ穿口ヲ塞クニ螺旋釘ヲ用非ルトキハ其捻戻ヲ爲シ得サル寸釘頭ヲ打潰シ若ハ釘著ニスルヲ要ス

第十九條 鐵製ノ分銅、錘及増錘ニシテ鉛ヲ填充セサルモノハ特ニ其一部ニ真鍮片ヲ挿入シ證印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第二十條 天秤ハ其秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其他ノ部ニ表記スヘシ

第二十一條 分銅ハ其重量、増錘ハ其掛量ヲ其上面又ハ側面ニ表記スヘシ但線狀ノ分銅ハ此限ニアラス

第二十二條 臺秤ハ其臺ノ縁ニ桿秤ハ其桿ノ目盛ノ各段ニ秤量ヲ表記スヘシ

増錘ナキ桿秤ニハ兩端目盛ノ中間二箇所以上ニ當該目盛ノ示重ヲ附記スヘシ

第二十三條 錘、増錘、皿等ニシテ其附屬スル秤桿ト分離シ得ルモノハ其秤桿ト同一ノ符號ヲ表記

スヘシ

第二十四條 度量衡器ニハ其製作又ハ輸入販賣者ノ記號及製作又ハ輸入ノ年號番號ヲ併列シテ表記スヘシ但度量衡法第九條ノ檢定ニ合格ノ證アル度量衡器ニシテ其記號年號及番號明瞭ナルモノハ此限ニアラス

修覆シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修覆者ノ記號及修覆ノ年號番號ヲ表記スヘシ

記號年號及番號表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

明治三十四年製(修覆若ハ輸入)ノ第三千二百號ハ

「記號34ニ〇ニ〇」又ハ「〇」又ハ「記號34ニ〇」

「記號」

第二十五條 數箇ノ分銅ヲ一組ト爲ストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ箱ニ表記スルコトヲ得

第二十六條 左ニ掲グル度量衡法第九條ノ檢定ニ合格ノ證アル度量衡器ハ臺灣度量衡條例第八條

第一號ニ依ル但本章ノ規定ニ違反セザルモノニ限ル

一 金屬製度量器

二 金屬(鐵葉ヲ除ク)及玻璃製秤

三 斗概

四 金屬製衡器(磁秤ヲ除ク)

第二章 特許

第二十七條 度量衡器ノ製作修覆又ハ販賣ハ臺灣總督ニ於テ之ニ適當ト認メタル者ニ限之ヲ特許ス

第二十八條 度量衡器ノ製作修覆又ハ販賣ノ特許年限ハ十五年トス

第二十九條 度量衡器ノ製作修覆又ハ販賣ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ其履歷書及左ノ事項ヲ詳記シタル設計書ヲ添ヘ臺灣總督ニ願出ヘシ但輸入販賣ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ其旨ヲ願書ニ記シ且其販賣セントスル器物内地ヨリ輸入スルモノナルトキハ其製作者又ハ原輸入販賣者ノ營業設計書及記號並ニ之ニ對スル所轄地方長官ノ證明書ヲ添付スヘシ

製作ノ特許ヲ願出ツル者

一 製作所ノ位置及構造(圖面添)

二 資本金

三 製作セントスル度量衡器ノ種類、形狀、物質並ニ其構造仕樣書及圖面

四 製作ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其職業別並ニ諸機械ノ種類

五 一箇年ニ製作スヘキ度量衡器ノ箇數及其種別

修覆ノ特許ヲ願出ツル者

一 修覆所ノ位置及構造

二 資本金

三 修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀、物質

四 修覆ニ使用スヘキ技師職工ノ員數及諸器械ノ種類

販賣ノ特許ヲ願出ツル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼ヌル者

一 販賣所ノ位置及構造

二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀、物質但輸入シテ販賣セントスル者ハ其器物ノ構造、仕様書及圖面ヲ添ユヘシ

三 資本金

四 販賣スヘキ度量衡器ノ價格

第三十條 臺灣總督ハ度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ特許スルトキハ其特許證ヲ下付ス。特許證ヲ紛失シタルトキハ更ニ其下付ヲ請フヘシ。

第三十一條 前條ノ特許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ其特許證ヲ返納スヘシ。

第三十二條 前條ノ特許ヲ得タル者其特許證受領ノ日ヨリ三箇月以内ニ營業ヲ開始セス又ハ一箇月以上其營業ヲ休止セントスルトキハ豫メ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ。

營業ヲ廢止セントスルトキハ臺灣總督ニ届出ヘシ。

第三十三條 度量衡器ノ製作又ハ修覆ノ特許ヲ得タル者ハ其原器ヲ備ヘ完全ニ保管スヘシ。前項ノ原器ハ備付ノ當初及毎年一回以上臺灣總督ノ検査ヲ受クヘシ。

第三十四條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ輸入販賣ノ特許ヲ得タル者ハ其表記ニ用井ル記號及其大小ノ種類ヲ定メ豫メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ。

第三十五條 輸入販賣者ニ於テ此規則第二十六條ニ該當スル度量衡器ヲ輸入シタルトキハ五日以内ニ其種類、形狀、物質及箇數ヲ詳記シテ臺灣總督府度量衡司検査所ニ届出ヘシ。

第三十六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ特許ヲ得タル者ハ其旨ヲ届出ツヘシ。

又ハ販賣シタル器物ノ種類、形狀、物質、箇數及販賣價格並仕入先其他必要ノ事項ヲ記入スヘシ。前項記入事項ニ付テハ毎年三月三十一日迄ニ其前年ニ於ケル統計書ヲ調成シテ臺灣總督ニ届出ツヘシ。

第三十七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ特許ハ之ヲ相續スルコトヲ得但相續人ハ其旨臺灣總督ニ届出ツヘシ。

第三十八條 臺灣度量衡條例第七條第三項ノ規定ニ依リ衡器ノ一部修覆ヲ爲サントスル者ハ其旨臺灣總督府度量衡司検査所ニ届出ツヘシ。

第三十九條 前條ノ修覆者ハ秤架及左ノ分銅ヲ備フヘシ。重量合計十五貫又ハ五十「キログラム」以上ノ分銅但此内五貫乃至一厘又ハ二十「キログラム」乃至一「センチグラム」各種ヲ合セ一組以上ヲ含ム。

前項ノ分銅ハ每三年一回以上臺灣總督ノ検定ヲ受クヘシ。

第三章 検定

第四十條 定期検定ハ其第一回ヲ明治四十三年ニ施行シ爾後五年目毎ニ之ヲ行フ。

第四十一條 検定スヘキ度量器玆玻璃製枘ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ。

五厘

一尺以下ノ度量器

- 一分
- 一寸
- 一「ミリメートル」
- 五「ミリメートル」
- 五「センチメートル」
- 玻璃製粉ノ目盛
- 全量ノ十分ノ一
- 分銅
- 一厘
- 一「センチグラム」
- 十尺未満ノ度量器
- 十尺以上ノ度量器
- 一「メートル」以下ノ度量器
- 五「メートル」未満ノ度量器
- 五「メートル」以上ノ度量器

第四十二條 度量衡器ノ檢定料ハ其器ノ極大表量ニ準シ一箇ニ付左ノ金額ヲ納ムヘシ但修復シタル度量衡器及第五十二條第五十四條ニ依ル度量衡器ノ檢定料ハ其半額トス

檢定料	
度量器	
一尺以下	一〇
二尺並ニ半「メートル」以下	二〇
三尺並ニ一「メートル」以下	四〇
十尺並ニ三「メートル」以下	六〇
十五尺並ニ五「メートル」以下	八〇

檢定料	
度量器	
三十尺並ニ十「メートル」以下	一五〇
六十尺並ニ二十「メートル」以下	三〇〇
百尺並ニ三十「メートル」以下	四〇〇
百五十尺並ニ五十「メートル」以下	六〇〇
曲リ尺長枝二尺並ニ半「メートル」以下	四〇
曲リ尺長枝三尺並ニ一「メートル」以下	六〇
量器	
二合五勺並ニ五「デシリットル」以下	一〇
一升 並ニ二「リットル」以下	二〇
二升 並ニ五「リットル」	四〇
五升 並ニ十「リットル」	六〇
一斗 並ニ二十「リットル」	八〇
斗概各種	
一〇	一〇
衡器	
二百匁或ハ一「キログラム」未満	二〇
二百匁或ハ一「キログラム」以上	四〇
一匁又ハ五「センチグラム」未満ヲ感スルモノ	八〇
五匁又ハ二「デシグラム」未満ヲ感スルモノ	六〇
天秤	六〇

秤		秤	
種類	重量	種類	重量
其他ノモノ	一五〇	八十貫並ニ五百斤及三百キログラム以下	八〇〇
百六十貫並ニ千斤及六百キログラム以下	二〇〇	三百二十貫並ニ二千斤及千二百キログラム以下	二〇〇〇
八百貫並ニ五千斤及三千キログラム以下	三〇〇〇	八百貫並ニ五千斤及三千キログラム以下	三〇〇〇
八百貫並ニ五千斤及三千キログラム以下	五〇〇〇	八百貫並ニ五千斤及三千キログラム以下	五〇〇〇
一貫六百匁並ニ二十斤及六キログラム以下	六〇	一貫六百匁並ニ二十斤及六キログラム以下	六〇
四貫並ニ二十五斤及十五キログラム以下	八〇	四貫並ニ二十五斤及十五キログラム以下	八〇
十六貫並ニ百斤及六十キログラム以下	一五〇	十六貫並ニ百斤及六十キログラム以下	一五〇
四十貫並ニ二百五十斤及百五十キログラム以下	三〇〇	四十貫並ニ二百五十斤及百五十キログラム以下	三〇〇
八十貫並ニ五百斤及三百キログラム以下	四〇〇	八十貫並ニ五百斤及三百キログラム以下	四〇〇
八十貫並ニ五百斤及三百キログラム以下	六〇〇	八十貫並ニ五百斤及三百キログラム以下	六〇〇

前項ノ檢定料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四十三條 臺灣度量衡條例第七條第三項及同第八條第二號ニ依ル衡器ノ一部修覆ハ左ニ掲クル部分ニ限ル

一 金屬ニアラサル桿秤ノ取緒、錘絲及釣絲、皿紐

前項ノ修覆ヲ爲シタル者其器物ニ差狂アリト認ムルニ於テハ其旨ヲ五日以内ニ臺灣總督府度量衡司檢所ニ届出テ且依頼者ニ之ヲ告知スヘシ

第四十四條 前條ノ修覆ニ使用スル取緒、錘絲及釣絲、皿紐ハ豫メ其見本ヲ差出シ臺灣總督府度量衡司檢所ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスル者ハ其器物ニ檢定申請書ヲ添ヘ臺灣總督府度量衡司檢所ニ差出スヘシ

檢定申請書ハ度量衡器ヲ製作修覆又ハ輸入シタルモノハ甲號書式ニ其他ノモノハ乙號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四十六條 臺灣總督府度量衡司檢所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其事由及度量衡器ノ種類、箇數等ヲ詳記シ其所在地ニ於テ檢定ヲ受ケントヲ請願スルコトヲ得但當該司檢員ノ旅費日當其他檢定ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第四十七條 度量衡器ヲ檢定スルニハ左ニ掲クル三段ノ検査法ニ依ル

第一 度量衡器檢定申請書ノ當否ノ検査

第二 度量衡器ノ種類、形狀、物質及構造ノ検査

第三 度器ノ目盛、量器ノ寸法、目盛及容量衡器ノ感量、目盛及重量ノ検査

前項ノ場合ニ於テ此規則第五十一條ノ證印又ハ證書アル度量衡器ナルトキハ左ニ掲クル各項ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

一 記號、年號及番號

二 量器ノ寸法

三 度量衡器ノ中間ノ目盛(盛直シノ場
合ヲ除ク)

第四十八條 第一検査ニ於テハ臺灣度量衡條例第三條第四條及此規則第四十五條ノ規定ニ照按シ

抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス
 第四十九條 第二検査ニ於テハ此規則第一章(第二條第十條及第十一條ヲ除ク)ノ規定ニ照校シ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス
 前項ノ場合ニ於テ其器ノ製作者若ハ輸入者ヨリ差出タル設計書ニ違背シ又ハ其構造若ハ材料不真ノ爲差狂ヲ生シ易キ虞アルモノハ不合格トス
 第五十條 第三検査ニ於テハ此規則第二條第十條第十一條第四十一條及別ニ定ムル所ノ度量衡器検査規程ニ照校シ抵觸ナキモノヲ合格トシ其他ハ不合格トス
 第五十一條 檢定ニ合格ノ度量衡器ニハ其證印ヲ附シ證印ヲ附シ難キモノニハ證書ヲ附ス證印又ハ證書アルモノニテ不合格ノトキハ證印ニハ消印ヲ附シ證書ハ之ヲ破毀スヘシ
 錘及増錘ハ其初回ノ檢定ノ外合格スルモ證印ヲ附セズ
 第五十二條 證印、證書及消印ノ種類、離形ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 證印
 打込印
 大 二分平方
 中 一分二厘平方
 小 六厘平方
 烙印
 大 四分平方
 小 二分平方

一 證書
 檢定合格之證
 一 形狀
 檢定申請者
 縣
 何
 種
 類
 大 三寸
 小 四寸

年記號	號及	號何	年
番	號	第何	號
年月日	臺灣總督府	度量衡司檢所	印

一 消印
 打込印
 大 四分
 中 二分六厘
 小 一分二厘
 烙印
 大 四分
 中 二分六厘
 小 一分二厘

第五十三條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印、證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其度量衡器ノ檢定ヲ受クヘシ
 第五十四條 度量衡器ニ異狀又ハ差狂ヲ生シタル疑アルトキハ販賣者ハ其販賣ヲ使用者ハ其使用ヲ停止シ其檢定ヲ受クヘシ
 第四章 雜則
 第五十五條 度量衡器ニ類似スル器物ハ他ノ名稱命位ヲ附スルモ之ヲ販賣又ハ證明ノ用ニ供スルコトヲ得ス但特別ノ技術ニ使用スル器械ハ此限ニアラス
 第五十六條 阿片煙膏請賣人食鹽販賣業者及公設市場ニ於テハ明治三十四年十二月三十一日限從來慣用ノ本島度量衡器ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五十七條 臺灣度量衡條例第十二條ノ臨檢ハ臺灣總督府度量衡司檢所員若ハ警察官吏之ヲ行フ但警察官吏ニアラサル臨檢吏員ニハ左式ノ證票ヲ携帯セシム

離形

第 號
度量衡臨檢吏員之證
年 月 日
臺灣總督府印

〔整三寸
橫二寸〕

第五十八條 臨檢吏員ニ於テ不正又ハ差狂アル度量衡器ナリト認ムルトキハ検査ノ爲直ニ之ヲ領置スルコトヲ得

第五章 罰則

第五十九條 此規則第三十一條第一項第三十六條第四十四條第五十四條第五十五條ニ違反シ若ハ第五十八條ニ依ル臨檢吏員ノ領置ヲ拒ミタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 此規則第三十八條第三十九條若ハ第四十三條第二項又ハ第五十三條ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 此規則第三十條第二項第三項若ハ第三十一條第二項第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第一項第二項及第三十七條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第六十二條 此規則ハ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス

第六十三條 從來證明ノ用ニ供セル度量衡器ニシテ此規則第二十六條指定以外ノモノヲ使用スル

者ハ明治三十五年十二月三十一日迄ニ此規則ノ規定ニ依リ其器ノ檢定ヲ受クヘシ

甲號書式 用紙美濃

度量衡器檢定申請書

此處ニ檢定料相當ノ收
入印紙ヲ貼用スヘシ

度 器

形 狀	物 質	尺 種	類	輸 入 作 業 又 番 號	何 處 何 箇
直 形	鋼	直 尺	何 尺 又 ハ 何	何 號 又 ハ 自 何 號	何 箇

秤

形 狀	物 質	尺 種	類	輸 入 作 業 又 番 號	何 處 何 箇
圓 形	扁 形	秤	一 斗 又 ハ 何 リ	何 號 又 ハ 自 何 號	何 箇

斗 概

種 類	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	何 處 何 箇
大 中 又 ハ 小	何 號 又 ハ 自 何 號	何 箇

分銅

形	狀	物	質	種	類	輸入	作番	又	ハ	箇	數
圓	形	長	輪	何	何	何	何	何	何	何	何
至	自	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

秤

種	類	物	質	秤	量	感	又	ハ	目	盛	輸	入	作	又	ハ	箇	數
天	秤	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
秤	秤	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
秤	秤	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右

住所

何製作、修理又ハ輸入者 何

某④

年月日 臺灣總督府度量衡司檢所長 殿

乙號書式 度量衡器檢定申請書

用紙半紙又ハ美濃 此處ニ檢定料相當ノ收 入印紙ヲ貼用スヘシ

度量衡器

物	質	種	類	箇	數
竹	直	尺	何	何	何
何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何

量器

物	質	種	類	箇	數
扁	柏	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何

分銅

種	類	箇	數
何	何	何	何
何	何	何	何
何	何	何	何
何	何	何	何

秤

種	類	秤	量	感	又	ハ	目	盛	輸	入	作	又	ハ	箇	數
天	秤	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
秤	秤	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
秤	秤	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右

年月日

臺灣總督府度量衡司檢所長

殿

住所

何 某

○臺灣總督府令第二號(官報二月一日)
傳染病患者鐵道乘車規程左ノ通相定ム

明治三十四年一月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

傳染病患者鐵道乘車規程

第一條 傳染病患者ヲ乘車セシメントスルトキハ豫メ其申込ヲ爲シ鐵道部ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道部ハ列車ヲ指定シ其他運送上旅客及公眾ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第三條 傳染病患者ハ臺灣傳染病豫防規則第三條ニ依リ當該官吏ヨリ移送ノ指揮ヲ爲シタルコトヲ證明スルニアラサレハ乘車セシムルコトヲ得ス

第四條 傳染病患者ニハ少ナクトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス
鐵道部ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス

第五條 傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト共車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スハシ

第六條 傳染病患者ハ臺灣傳染病豫防規則第三條ニ依リ移送ノ指揮ヲ受ケタル地ノ外猥ニ下車セシムルコトヲ得ス

第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ニハ其入口ニ「傳染病者」ノ四字ヲ掲示スヘシ

第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第九條 乘車中傳染病ニ罹リタル者アルトキハ速ニ警察官又ハ其他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第十條 車輛器具ノ消毒其他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附則

第十一條 此規程ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府令第三號(官報二月八日)

明治三十三年十月府令第九十號宜蘭廳出張所名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス本令ハ明治三十四年三月一日ヨリ施行ス

明治三十四年一月三十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

名	稱	位	置	管	轄	區	域
宜蘭出張所	本城堡	宜蘭街	本城堡及員山堡一圓	民壯團堡ノ内壯一庄壯二庄、壯三庄、壯四庄、壯五庄、壯七庄、南興庄、美福庄、七張庄	四圍堡ノ内瑞珠庄、武勝庄、大波庄、四結庄、豬狗	古亭庄、結庄、幸仔亭庄、車路頭庄、新發庄、頭圍堡ノ内宜蘭出張所所屬ヲ除キ一圓	頭圍堡ノ内白石脚庄
礁溪出張所	四圍堡	礁溪庄	頭圍堡ノ内礁溪出張所所屬ヲ除キ一圓	頭圍堡ノ内礁溪出張所所屬ヲ除キ一圓			
東港出張所	民壯團堡	東港后庄	民壯團堡ノ内宜蘭出張所所屬ヲ除キ一圓				
羅東出張所	羅東堡	羅東街	羅東堡一圓二結堡一圓	紅水溝堡一圓	清水溝堡ノ内叭哩沙出張所所屬ヲ除キ一圓		
叭哩沙出張所	浮州堡	叭哩沙庄	浮州堡一圓	浮州堡ノ内尾藪庄			
利澤簡出張所	利澤簡堡	利澤簡庄	利澤簡堡ノ内三堵庄、五十二甲庄、利澤簡庄、成興庄、隆恩庄、功勞埔庄、頂清水庄、下清水庄、鏡々庄	利澤簡堡一圓			

蘇澳出張所 利澤簡堡蘇澳庄 利澤簡堡ノ内利澤簡出張所所屬ヲ除キ一圓

○臺灣總督府令第四號(官報二月二十三日)

明治三十三年五月府令第四十五號臺灣川石山間海底電信線經由臺灣ニ發著スル新聞電報送受地名中シカゴ及華盛頓ノ項ヲ左ノ通改正ス

明治三十四年二月九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

シカゴ 三法十五先士半

一圓二十六錢二厘

華盛頓

三法三十一先士半

一圓三十二錢六厘

○臺灣總督府令第五號（宣報 三月四日）
臺灣囚人及刑事被告人押送規則左ノ通相定ム

明治三十四年二月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣囚人及刑事被告人押送規則

- 第一條 囚人又ハ刑事被告人ノ押送ハ沿道警察官署ノ遞傳ニ付スルモノトス但發送官署又ハ押送官署ノ都合ニ依リ直送ヲ爲スハ妨ケナシ
- 第二條 汽車又ハ汽船ノ便アル地方間ノ押送ハ其汽車又ハ汽船ニ依リ難キ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外總テ直送スヘキモノトス
- 第三條 監獄本支監間ノ押送ハ司獄官吏ヲシテ直送セシムヘシ但十里以上ニシテ汽車汽船ノ便ナキ地方ニアリテハ第二條ニ依ルコトヲ得
- 第四條 直送ヲ爲ス場合ニ於テ途中特ニ危險ノ虞アリト認メタルトキハ沿道警察官署又ハ憲兵屯所ニ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 押送ノ場合ニ於テハ發送官署ハ其發送前豫メ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ押送人員及發送日時ヲ通知スヘシ
- 遞傳押送ニ係ル場合ニ於テハ發送官署及各押送官署ハ豫メ前項ノ事項ヲ次ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知スルヲ要ス
- 第六條 押送ノ場合ニ於テハ發送官署ハ別記離形ノ様式ニ從ヒ押送狀ヲ作り被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添へ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ
- 第七條 押送官署ニ於テハ別記離形ノ押送帳簿ヲ備へ押送ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第八條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ送致スルモノハ別記離形ノ様式ニ從ヒ送致金品目錄ヲ調製シ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一 物品ハ押送官吏ニ託シテ之ヲ送致ス但危險ノ虞アル物品若ハ押送官吏ノ攜帶ニ堪ヘサル物品ハ此限ニアラス

二 貨幣ハ保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ互ラサル場合ハ之ヲ押送官吏ニ託スルコトヲ得

第九條 送致中ニ係ル貨幣物品ハ前條ニ依リ押送官吏ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送官吏ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第十條 押送ハ日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但第二條ノ場合ハ此限ニアラス

第十一條 疾病者及妊娠者若ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル者ハ押送前醫師ヲシテ診察セシメ其押送ニ堪ヘスト認メラレタル者ハ押送ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テハ押送ヲ求メタル官署ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十二條 押送中逃走者アルトキハ押送官吏ハ直ニ之ヲ附近ノ各警察官署憲兵屯所及押送官署ニ通報シ押送官署ハ仍發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第六條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條 押送官吏ノ旅費其他押送ニ要スル費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ支辨トス但第四條ニ依リ助力ニ應シタル官吏ノ費用ハ其官署ノ支辨トス

第十四條 被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシムヘシ囚人及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ハ監獄所在地ニ於テハ監獄ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其地ノ警察官吏又ハ街庄社長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 被押送者ヲ警察官署ニ宿泊セシムルトキハ其費用ハ拘留人ノ例ニ依リ其他ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ凡テ實費額ニ依ル但臥具點燈料其他宿泊ノ費用ハ一泊金十五錢食費ハ一回金十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 被押送者ノ貨幣物品ハ押送途中之ヲ下付スルコトヲ得ス但刑事被告人豫メ自費ヲ以テ押送途中必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察官署ハ必要ノ有無其他ノ關係ヲ取糾シテ之ヲ許否スヘシ

拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ價置金支出方ニ付當該判官ノ允許ヲ受ケ其旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第十七條 前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ承認書ヲ徴スヘシ

第十八條 押送中押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押送官吏ハ警察官吏又ハ街庄社長ノ助力ヲ求ムルコトヲ得但已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察官署ニ交付スルコトヲ得此場合ニ於テハ交付ヲ受タル官署ニ於テ更ニ押送ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 押送中押送者死亡シタルトキハ最寄警察官署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニアリテ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其他ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

第二十條 被押送者ノ遺骸ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡ノ年月日時

發送官署名	押送シ來リタル官署名	送付官署名	最後ニ送付ヲ受クヘキ官署名	押送シ來リタル首領官吏氏名及押送官吏員數	發送日 時	到着明治年月日 時	發送明治年月日 時	押送方法	送致金品		金額
									點數	金	
									到着後	到着前	本欄ニハ金額並ニ合計ニ關スル簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ
											本欄ニハ點數並ニ物品帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ

備考 本欄ニハ被押送者ニシテ發病死亡逃走其他ノ事故アルニ際シ詳細ニ其旨ヲ明記シ且所持金品ノ處分等ヲ掲クルモノトス

○臺灣總督府令第六號(官報 三月二十三日)

明治三十一年一月府令第二號訴訟代人規則第十三條ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十四年三月十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

訴訟代人取締細則又ハ訴訟代人會則ニ違背シ若ハ訴訟代人タル品位ヲ汚損シタルニ依リ總會ノ決議ヲ經テ會長ヨリ地方法院檢察官長ニ申告シ地方法院檢察官長ノ稟請アリタルトキ亦前項ニ同シ

○臺灣總督府令第七號(官報 三月二十三日)

明治三十一年九月府令第九十一號臺灣土地調查規則施行細則中第一條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

明治三十四年三月十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條ノ三 申告スヘキ土地ハ臺灣地籍規則第一條第一號乃至第三號及第六號ニ該當スル種目ニ

限ル但用惡水路及調査ヲ要セスト認メタル山林原野ハ此限ニアラス

○臺灣總督府令第八號(官報 三月二十六日)

臺灣地方稅賦課徵收規則左ノ通相定ム

明治三十四年三月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣地方稅賦課及徵收規則
第一條 營業稅ノ種類左ノ如シ

一 商業稅

二 工業稅

第二條 雜種稅ノ種類左ノ如シ

一 湯屋

一 職工

一 銃獵人

一 理髮人

一 遊藝藝人

一 俳優

一 藝妓

一 娼妓

一 酌婦

一 市場

- 一 興行
 - 一 遊技場
 - 一 人寄席
 - 一 船筏
 - 一 車
 - 一 水車
 - 一 橋
 - 一 厝畜
 - 一 茶園
 - 一 魚塢
- 第三條 地方長官ニ於テ第二條課稅種類ノ外特ニ課稅ノ必要ヲ認メタルモノアルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ニ賦課スルコトヲ得
- 第四條 左ニ掲クルモノハ地方稅ヲ賦課セス
- 一 社寺廟宇及學事宗教慈善ニ係ル專用又ハ無償ニテ官用若ハ公共ノ用ニ供スル建物
 - 二 耕作專用ノ船筏車
 - 三 營利ノ目的ニアラサル興行
 - 四 本船ニ附屬スル端艇其他小舟ノ類
 - 五 政府ヨリ賣下ヲ受ケタル物品ニシテ定價ヲ以テ賣捌ヲ爲スモノ
 - 六 官有ニ係ル建物及船筏車輜

- 七 地方長官ニ於テ納稅ニ堪ヘスト認メタル者
- 第五條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ前條各項ニ該當セサルモノト雖臺灣總督ノ認可ヲ經テ特ニ地方稅ヲ免除スルコトヲ得
- 第六條 地方稅ノ徵收ハ縣ニアリテハ辨務署長、廳ニアリテハ廳長ニ於テ各納人(第九條第二項ノ方稅委員又ハ街庄社長)ニ對シ別記甲乙號書式ノ徵稅告知書ヲ發スヘシ但地租附加稅ハ地租ノ納人告知書ニ付記シ徵稅告知書ヲ發セサルコトヲ得
- 納人ヲシテ稅金ヲ即納セシムル場合ニ於テハ徵稅告知書ヲ發セス別記丙號書式ノ領收證ヲ發スヘシ
- 第七條 徵稅告知書ハ特別ノ理由アルモノノ外年稅ニ係ルモノハ其納期(納期數日ニ涉ルモハ初日)十五日以前其他ハ時々之ヲ發スヘシ
- 第八條 辨務支署長若ハ出張所長ニ於テ地方稅ノ徵收ヲ爲ス場合ニ於テハ第六條第七條ノ手續ニ依ルヘシ
- 第九條 地方長官ハ地方ノ情況ニ依リ街庄社長ヲシテ徵稅告知書ニ依リ納人ヨリ納付スル稅金ヲ取纏メ送付ノ責ニ當ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其取纏ヲ爲サシムル旨ヲ告示スヘシ
- 街庄社長又ハ地方稅委員ヲ設ケ地方稅賦課額ノ分賦及其稅金ノ取纏メヲ爲シ納付ノ責ニ當ラシムルノ必要アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十條 街庄社長又ハ地方稅委員ニ於テ取纏メタル稅金ハ漸次徵稅告知書ヲ發行セル官廳又ハ當該官吏ニ送付若ハ納付シ遲クモ納期後三日ヲ過クヘカラス
- 前條第二項ニ依リ地方稅金ノ取纏メヲ爲サシメタル場合ニ於テ未納者アリタルトキハ其人名及稅目稅額ヲ申報セシムヘシ

第十一條 地方稅ヲ逋脱シタル者ハ脱稅金額五倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ尙其稅金ハ之ヲ追徵ス
 前項脱稅高五倍ノ金額二百圓ヲ超過スルトキハ二百圓ノ罰金ニ處ス
 第十二條 地方稅ノ滯納ニ付テハ明治三十一年律令第五號臺灣租稅滯納處分規則ヲ適用ス
 第十三條 第一條第二條課稅種類ノ細目ノ稅率ノ賦課期及納期ハ地方長官之ヲ定ム
 第十四條 地方稅ニ屬スル稅外諸收入ニハ此規則ヲ準用ス
 縣知事ニ於テ直接管理スルモノニ付テハ辨務署長ノ職務手續ヲ準用ス

第十五條 附則 本令ハ明治三十四年度ヨリ施行ス
 明治三十一年府令第六十一號臺灣地方稅賦課規則及同年府令第六十二號臺灣地方稅徵收規則ハ
 明治三十三年度限廢止ス
 別記書式(甲)

徵 稅 告 知 書

用紙適宜 稅額四十五分ノモノニ枚控帳

第何號	明治何年何月何日	納人住所氏名
款項	目	何期分又ハ何月分
一金何程		
右明治何年何月何日限當額ニ納付スヘシ		
何辨務署長 氏 名 圖		

一 辨務署ニ地方稅金取扱所員ヲ出頭セシメ現
 金ノ領收ヲナサシメタルトキハ徵收告知書
 及領收證書金額ノ下ニ取扱所員ノ檢印ヲ押
 捺セシメ該檢印ヲ認メタル上書式ノ通記入
 捺印ノ上徵稅告知書ハ切離シテ留置領收證
 ハ納人ニ交付スヘシ

別記書式(乙)

領 收 證 書

用紙適宜 稅額四十五分ノモノニ枚控帳

第何號	明治何年何月何日	納人住所氏名
款項	目	何期分又ハ何月分
一金何程		
右領收候也		
何辨務署長 氏 名 圖		

年 月 日 領 收

一 地方備考
 一 地方稅金取扱所所在ノ辨務署長ニ於テ納
 入金額トシテハ本署ニ依リ徵收告知書
 目録ニ於テハ本署ニ於テ領收告知書
 徵稅告知書ニ於テハ本署ニ於テ領收告知書
 所名ヲ取知入捺印シ徵稅告知書ハ切離シテ留

書 明治何年何月何日 何辦務署長 氏 名 印

第何號	明治何年何月何日	納人住所氏名
款項	目	何期分又ハ何月分

一金何程

右領收候也

明治何年何月何日 某地方税金取扱所 印

別記書式(丙)

用紙適宜 縦三寸五分ノモノニ二枚接綴

第何號	明治何年何月何日	納人住所氏名
款項	目	何期分又ハ何月分

一金何程

原收領

明治何年何月何日

長辦務署 印

符

第何號	明治何年何月何日	納人住所氏名
款項	目	何期分又ハ何月分

一金何程

右領收候也

明治何年何月何日 何辦務署長氏名 印

領收證書

領收證ハ納人ニ交付スルモノトス

○臺灣總督府令第九號 (官報 四月八日)

明治三十一年律令第十四號臺灣土地調查規則ヲ明治三十四年四月一日ヨリ臺中臺南兩縣ニ施行ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十號 (官報 四月八日)

地方ニ便宜郵便及電信局出張所ヲ置キ郵便物小包代金引換、現金取立ヲ含ムノ集配郵便切手類ノ賣下、郵便爲替、郵便貯金ノ受拂及郵便取立金拂渡ノ事務ヲ取扱ハシム
前項ノ外特ニ指定シタル出張所ニ於テハ電信ノ取務ヲ取扱ハシム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年三月府令第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年三月二十七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十一號 (官報 四月八日)

郵便及電信局管轄區内樞要ノ地ニ郵便受取所ヲ置キ郵便物小包代金引換、現金取立ヲ含ムノ受付、郵便切手類ノ賣下、郵便爲替、郵便貯金ノ受拂及郵便取立金拂渡ノ事務ヲ取扱ハシム
郵便受取所ニ關シテ規定セザル事項ハ總テ内地郵便受取所ノ規程ヲ準用ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年三月府令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年三月二十七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十二號 (官報 四月十一日)

明治三十三年四月府令第三十七號臺灣電話交換規則第二十四條中「納付スヘシ」ノ下ニ「但官廳ニ限り」

第一期分ハ其期ノ初月一日ヨリ二十日マテニ納付スルコトヲ得ノ二十四字ヲ加フ
明治三十四年三月三十日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

臺灣總督府令第三十七號臺灣電話交換規則(明治三十三年四月二十四日官報)抄録
第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ前期ノ末日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ
第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ
第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ
第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ
第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

○臺灣總督府令第十三號(官報 四月十一日)

臺灣川石山間海底電信線ヲ經由シ臺灣ニ發著スル新聞電報ヲ送受スルコトヲ得但韓國發著新聞電報ハ之ヲ取扱ハス

前項ノ新聞電報ニハ明治三十年六月遞信省令第十八號ヲ準用シ其地名及料金ハ別ニ之ヲ告示ス
新聞電報ノ臺灣川石山間料金(本邦首尾料ヲ含ム)ハ一語ニ付金八錢トス

明治三十三年五月府令第四十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年三月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十三年五月廿二號臺灣總督府令第四十五號ハ臺灣川石山間海底電信線ヲ經由シ臺灣ニ發著スル新聞電報送受其地名及料金ノ件ナリ

○臺灣總督府令第十四號(官報 四月十一日)

臺灣警察賞與規程左ノ通相定ム

明治三十四年三月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣警察賞與規程

第一條 警察賞與ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其功績ノ程度ニ應シ之ヲ行フモノトス

一 重罪犯人又ハ輕罪犯人ヲ逮捕シ又ハ逮捕ヲ容易ナラシメタル者

二 人命ヲ救護シタル者

三 水火災惡疫流行其他事變ニ際シ防禦救濟ヲ爲シタル者

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

一 金五十圓以上五百圓以内ノ特別賞與

二 金五十圓以内ノ賞與

三 賞狀

第三條 第一條第一號ニ依ル賞與ハ確定判決ニ至ラスト雖犯罪ノ事實明白ナリト認ムルトキハ之ヲ行フコトヲ得

第四條 警部巡查其他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其功勞特ニ顯著ナルトキニ限り賞與ヲ行フモノトス

第五條 功勞者賞與前ニ死去シタルトキ又ハ所在不明ナルトキハ賞與金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近

親族ニ給ス但同順位ノ者數人ナルトキハ年長者ニ給ス

一 配偶者

二 一戸内ニ在ル直系卑屬

三 一戸内ニ在ル直系尊屬
四 一戸内ニ在ル兄弟姊妹

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ賞與セス但第二號ノ場合ニ於テ功績顯著ニシテ一般ノ利益トナリタルトキハ此限ニアラス

一 功勞者賞與前禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ警部巡查其他警察事務ニ従事スル者懲戒處分ニ依リ其職ヲ免セラレタルトキ

二 自己又ハ親族ノ利害ニ關スル事件又ハ被害者ト利害ヲ共ニスルトキ

三 第一條第一號ノ場合ニ於テ犯罪人其親族ナルトキ
四 警察官吏ニシテ犯罪人ヲ逮捕シ引致前ニ逃走セシメタルトキ又ハ押送途中逃走セシメタル者ヲ逮捕シタルトキ

第七條 第一條ノ場合ト雖其功績又ハ事件ノ輕易ナルモノニ對シテハ賞與セス

第八條 賞與ハ警部巡查其他警察事務ニ従事スル者ニ對シテハ其所屬ニ從ヒ其他ノ者ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ地方長官之ヲ行フ
一 第一條第一號ノ場合ニ在リテハ最初ニ犯罪人ヲ受取リタル官署所在地ノ縣廳
二 第一條第二號及第三號ノ場合ニ在リテハ行爲地ノ所轄縣廳

附 則

第九條 此規程施行前ニ係ルモノト雖第一條ニ該當スル者ニ對シテハ此規程ニ依リ賞與ヲ行フコトヲ得

○臺灣總督府令第十五號 (官報 四月十一日)

臺灣地籍規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十四年三月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣地籍規則施行細則

第一條 臺灣地籍規則第一條第一號乃至第三號及第六號ニ該當スル土地ハ其一區域毎ニ地番ヲ付シ土地臺帳ニ登錄ス但鐵道線路及用惡水路ハ此限ニアラス

第二條 土地臺帳ハ街庄社ニ區分シ左ニ掲グル事項ヲ登錄ス

- 一 土名
- 二 地番
- 三 則別
- 四 地目
- 五 甲數
- 六 地租
- 七 業主、管理人及納稅義務者ノ住所氏名

第三條 業主ニ於テ土地ノ分割ヲ必要トスルトキ又ハ一地番ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ第一號書式ニ依リ土地ノ分割ヲ地方官廳ニ届出ツヘシ

- 一 地目ヲ變換スルトキ
- 二 業主權ヲ移轉スルトキ
- 三 出典又ハ質入ヲ爲ストキ

第四條 敷地番ノ土地ヲ合併セントスルトキハ第二號書式ニ依リ地方官廳ニ届出ツヘシ但左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

一 地目ヲ異ニスルトキ

二 業主又ハ納稅義務者ヲ異ニスルトキ

三 出典又ハ質入ニ係ルモノ

四 道路、河川、溝渠、用惡水路等ヲ隔テ土地ノ連續セサルモノ

第五條 地目ヲ變換シタルトキハ第三號書式ニ依リ遲滞ナク地方官廳ニ届出ツヘシ但地租規則施行細則第七條ノ場合ハ本條ノ届出ヲ要セス

第六條 土地臺帳ニ登錄セサル土地ヲ開墾シ若ハ水面ヲ埋立タルトキハ第四號書式ニ依リ其土地ノ業主タル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ遲滞ナク地方官廳ニ土地臺帳ノ登錄ヲ願出ヘシ但證憑書類ハ當該官吏檢閱ノ上之ヲ還付ス

第七條 土地臺帳ニ登錄シタル土地ノ業主、典主、質取主、管理人其他納稅義務者ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ第五號書式ニ依リ本人居住地ノ街庄社長又ハ辨務署長ノ證明ヲ得テ遲滞ナク地方官廳ニ届出ツヘシ

第八條 第三條乃至第七條ノ場合ニ於テ國有地ニ係ルトキハ保管官衙ヨリ其手續ヲ爲スヘシ

第九條 臺灣地籍規則第三條ニ依リ土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスル者ハ一地番ノ土地ニ付金三錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

前項ノ謄本ハ業主、典主又ハ質取主ニ限り之ヲ下付ス

官廳ニ届出ツヘシ

第十條 第三條乃至第五條及第七條ノ届出ヲ怠リ又ハ第六條ノ願出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十一條 地籍ノ丈量ニ用ル尺度及地積ノ名稱命位ハ臺灣土地調查規則第二條及第三條ノ規定ニ依ル

第十二條 則別及地租ハ當分ノ内土地臺帳ニ登錄セス

(第一號書式)

土地分割届

何處何庄土名何何番

元何則田(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

同番ノ一

一何則田(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

同番ノ二

一何則田(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

右ノ通分割仕候ニ付別紙圖面相添此段及御届候也

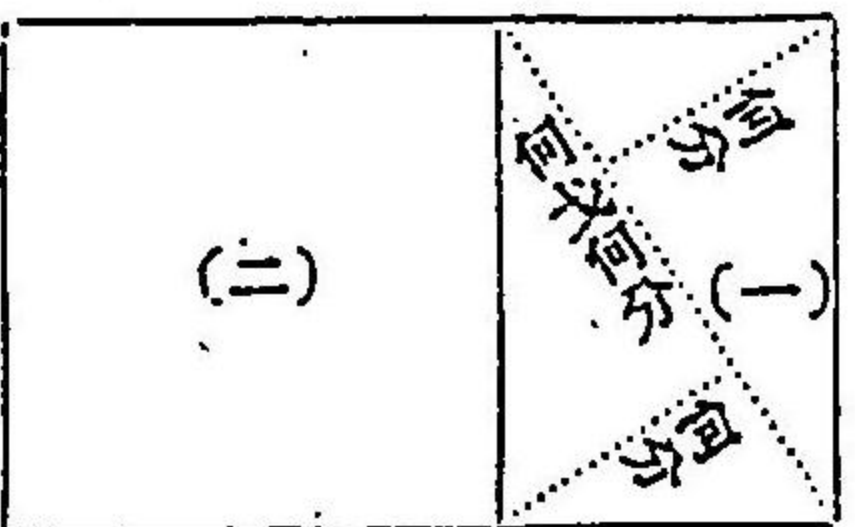
明治何年何月何日

地方長官宛

何處何庄何番
業主 何
何街庄社長 何
某印
某印

(別紙)

北



(一) 何何何分何何
此二條何何何分何何
甲數何何何分

(第二號書式)

土地合併屆

何堡何庄土名何何何番
元何則田(又ハ何)何甲何分
地租 何圓何十錢
同何番
元何則田(又ハ何)何甲何分
地租 何圓何十錢
一合併何則田(又ハ何)何甲何分
地租 何圓何十錢
右及御届候也

明治何年何月何日

地方長官宛

何堡何庄何番戶
業主 何
何街庄社長 何

某 某印

(第三號書式)

地目變換屆

何堡何庄土名何何何番
一何則田(又ハ何)何甲何分
地租 何圓何十錢
右畑(又ハ何)ニ變換
右及御届候也

明治何年何月何日

地方長官宛

何堡何庄何番戶
業主 何
何街庄社長 何

某 某印

(第四號書式)

土地登記登錄願書

何堡何庄土名何何何番境界
一建物敷地(又ハ何)何甲何分
右ノ通開墾(又ハ墾立)仕候ニ付土地墾墾(登錄相成度別紙圖面及證明書類相添此段相願候也
明治何年何月何日

地方長官宛

何堡何庄何番戶
業主 何
何街庄社長 何

某 某印

(第五號書式)

住所(又ハ氏名)變更屆

何堡何庄土名何何何番
一田(又ハ何)何甲何分

同何番
一畑(又ハ何)何甲何分
右住所(又ハ氏名)變更ニ付及御届候也

元住所何屋何番
現住所何屋何番
(又ハ何屋何番何番元何某)
業主(又ハ何何) 何 某印
何街庄社長 何 某印

明治何年何月何日

地方長官宛

○臺灣總督府令第十六號 (官報 四月十一日)
明治三十一年律令第十三號臺灣地籍規則ハ明治三十四年四月一日ヨリ臺北縣文山堡及擺接堡(加納仔庄ヲ除ク)ニ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年三月三十日

○臺灣總督府令第十七號 (官報 四月十一日)

明治二十九年府令第二十八號臺灣地租規則施行細則左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年三月三十日

臺灣地租規則施行細則

- 第一條 地租ハ舊來ノ定率ヲ以テ田畑(茶園ヲ除ク)及從來地租ヲ負擔シタル土地ニ就キ之ヲ徵收ス
- 第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ依リ増減セス
- 第三條 地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル業主ヨリ徵收ス但出典又ハ質入ニ係ル土地ニ付テハ典主又

ハ質取主ヨリ又典主業主及質取主以外ノ者ニ於テ地租ヲ納ムルノ舊慣アル土地ニ付テハ其者ヨリ之ヲ徵收ス

前項但書ノ場合ニ於テモ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル者ヨリ徵收ス

第四條 地方長官ハ左ニ掲クル期間内ニ於テ適宜納期ヲ限定シ之ヲ告示スヘシ

前期 其年五月一日ヨリ 其年分半額 後期 其年十月一日ヨリ 殘半額

地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ前期ニ於テ全年分ヲ徵收スルコトヲ得

第五條 無租地ヲ有租地ト爲シタルトキハ地味ノ沃瘠耕耘ノ難易水利運輸ノ便否等ヲ審査シ則別ヲ撰定シ其地租ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ許可又ハ命令アルトキハ其時其他ハ事業成功ノ時ヲ以テ區分シ其年六月二十日以前ニ係ルモノハ全年分ヲ其年七月一日以後ニ係ルモノハ半年分ノ地租ヲ徵收ス但賦租ノ時期ニ付別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第六條 地租ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ免除ス

一 國有地トナリタルトキ

二 道路溝渠河川堤防鐵道用地及用惡水路トナリタルトキ

前項ノ土地ハ其許可又ハ命令ノ時ヲ以テ區分シ其年六月三十日以前ニ係ルモノハ全年分其年七月一日以後ニ係ルモノハ半年分ノ地租ヲ免除ス

第七條 第五條第六條ノ場合ハ第一號書式ニ依リ賦除租願書ヲ地方官廳ニ差出スヘシ但國有トナリタル土地ニ付テハ除租願書ヲ要セス直ニ地方官廳ニ於テ除租ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 天災ニ罹リ荒地トナリタル有租地ニ對シテハ被害ノ淺深ニ依リ荒地免租出願ノ年ヨリ五

簡年以内ノ免租年期ヲ付與シ年期明ニ至リ原地租ヲ徵收ス

第九條 荒地免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ五箇年以内ノ免租繼年期ヲ付與シ年期明ニ至リ原地租ヲ徵收ス

第十條 第八條及第九條ノ免租年期付與ヲ請ハントスル者ハ第二號書式ニ依リ地方官廳ニ願出ツヘシ

第十一條 地租ヲ定メ又ハ地租ヲ免除スルトキ若ハ荒地トナリタル場合ニ於テハ其願書ニ實地ノ現形ヲ畫キ四至ヲ詳記シタル圖面ヲ添付スヘシ但土地臺帳ニ登錄シタル土地ハ一地番内幾分荒地トナリタルモノノ外圖面ヲ要セス

第十二條 納租人他ノ辨務署内ニ居住スルトキハ土地所在地ヘ納租代理人ヲ定メ第三號書式ニ依リ地方官廳ニ届出ツヘシ

納租代理人異動セントキ又ハ其住所氏名ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シ届出ツヘシ

附則

第十三條 此規則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 地盤丈量ニ用井ル尺度及地積ノ名稱命位ハ臺灣土地調查規則第二條及第三條ノ規定ニ依ル

第十五條 臺灣地籍規則ヲ施行セサル地域内ニ於テハ第三條ノ納租人ハ從來ノ例ニ依ル

第十六條 臺灣地籍規則ヲ施行セサル地域内ニ於テ納租人異動セントキ又ハ其住所氏名ヲ變更シタルトキハ第四號書式ニ依リ地方官廳ニ届出ツヘシ但契稅規則ニ依リ契尾ノ下付ヲ受ケタルトキハ本條ノ届出ヲ要セス

第十七條 澎湖廳ノ地租ニ關シテハ當分ノ内此規則ニ依ラス從來ノ例ニ依ル

第一號書式(甲)

賦租願

何處何庄土名何何番
元原野(又ハ何何)何甲何分
一何則田(又ハ何何)何甲何分 明治何年何月何日(又ハ何何)
地租 何圓何十錢
右賦租相願候也

明治何年何月何日

何處何庄何番戶
業主 何
何街庄社長 何
某印 某印

地方長官宛

備考
一 地籍規則ヲ施行セサル地域内ニ於テハ地番、元地目及元甲數ノ記載ヲ要セス
二 速習スヘキ街庄社長ハ土地所在ノ街庄社長トス以下同シ

第一號書式(乙)

除租願

何處何庄土名何何番
一何則田(又ハ何何)何甲何分 明治何年何月何日許可道路敷地成(又ハ何何)
地租 何圓何十錢
右除租相願候也

明治何年何月何日

何處何庄何番戶
業主 何
何街庄社長 何
某印 某印

地方長官宛

備考

一納租人ノ業主以外ノ者ナルトキハ納租人連署スヘシ以下同シ

第二號書式(甲)

荒地免租願

何堡何庄土名何何番

一何則田(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

(又ハ)

內何甲何分

地租 何圓何十錢

荒地成年月日 明治何年何月

荒地免租年期 自明治何年何月何箇年

右免租年期付與相願候也

明治何年何月何日

何堡何庄何番戶

業主 何

何街庄社長 何

某印

地方長官宛

書式第二號(乙)

荒地免租繼年期願

何堡何庄土名何何番

一何則田(又ハ何)何甲何分 自明治何年何月何箇年免租年期ノ分

地租 何圓何十錢

(又ハ)

內何甲何分

地租 何圓何十錢

荒地繼年期 自明治何年何月何箇年

何堡何庄何番戶

業主 何

何街庄社長 何

某印

右免租繼年期付與相願候也

明治何年何月何日

地方長官宛

第三號書式

納租代理人届

何堡何庄土名何何番

一田(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

同堡同庄土名何何番

一畑(又ハ何)何甲何分

地租 何圓何十錢

右納租代理人相定候ニ付及御届候也

明治何年何月何日

何堡何庄何番戶

業主 何

何街庄社長 何

某印

地方長官宛

第四號書式

納租人異動(又ハ何何)届

何堡何庄土名何何番

一田(又ハ畑)何甲何分

地租 何圓何十錢

何堡何庄何番戶

業主 何

何堡何庄何番戶

納租代理人 何

何街庄社長 何

某印

(又ハ)

何甲何分

地租 何圓何十錢

右ハ明治何年何月何日隨與(相續又ハ何何)ニ付及御屆候也

明治何年何月何日

何處何庄何番戶

贈與人(又ハ何) 何

何處何庄何番戶

受贈人(又ハ何何) 何

何街庄社長

某印 某印 何 某印

地方長官宛

備考

一住所氏名ヲ變更シタルトキハ本例ニ倣ヒ住所氏名ヲ附記スヘシ

○臺灣總督府令第十八號 (官報 四月十一日)

土地臺帳ニ登錄シタル土地ノ業主、典主又ハ質取人異動セシトキハ土地所在地名、地番、地目及甲敷ヲ記シ、證書類ヲ添ヘ地方官廳ニ届出ツヘシ但契稅規則ニ依リ届出ヲ爲シタルトキハ本令ニ依リ届出ヲ要セス

明治三十四年三月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十九號 (官報 四月十六日)

官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用ノ件左ノ通相定ム

明治三十四年四月五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

官幣大社臺灣神社神職定員及出仕採用規定

第一條 臺灣神社神職定員左ノ如シ

- 宮司 一人
- 禰宜 三人
- 主典 八人

第二條 臺灣神社ニ出仕(雇)ヲ置キ主典ノ職務ヲ補助セシムルコトヲ得

○臺灣總督府令第二十號 (官報 四月十六日)

官幣大社臺灣神社神職俸給規則左ノ通相定ム

明治三十四年四月五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

官幣大社臺灣神社神職俸給規則

第一條 官幣大社臺灣神社神職ノ俸給ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第三條 俸給ハ新補轉補増給トモ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第四條 退職又ハ死亡ノトキハ俸給當月分ノ全額ヲ給ス

第五條 在職中死亡シタルトキハ年俸三分ノ一又ハ月俸三箇月分ヲ一時其遺族ニ給ス遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

第六條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ給ス但社務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及賜暇

休養スル者ハ此限ニアラス

第七條 俸給支給ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

(別表)

俸給表

年俸	官 司		關 立		主 典
	年 俸	月 俸	年 俸	月 俸	
上級俸	下級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸
二千圓	一千圓	七百五十圓	六百圓	五百圓	四百圓
		三百五十圓	二百五十圓	二百圓	一百五十圓
		一百五十圓	一百圓	八十圓	六十圓
		六十圓	五十圓	四十圓	三十圓
		三十圓	二十圓	十五圓	十圓

○臺灣總督府令第二十一號 (官報 四月三十日)
稅關支署ノ名稱位置及管轄區域左ノ通相定ム

附則

本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ施行ス

明治三十四年四月十三日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

名稱	位置	管轄區域
基隆	臺北縣管下基隆	花蓮港ヨリ北方三貂角ヲ廻リ西方富基岬ニ至ル沿岸
新竹	臺北縣管下新竹	南港ヨリ南方中港ニ至ル沿岸
苗栗	臺北縣管下苗栗	中港ヨリ南方大安港ニ至ル沿岸
臺中	臺中縣管下臺中	大安港ヨリ南方草港ニ至ル沿岸
彰化	臺中縣管下彰化	草港ヨリ南方西螺港ニ至ル沿岸
南投	臺中縣管下南投	西螺港ヨリ南方北港ニ至ル沿岸
雲林	臺南縣管下雲林	北港ヨリ南方蚊港ニ至ル沿岸
嘉義	臺南縣管下嘉義	阿公店港ヨリ南方淡水港ニ至ル沿岸
臺南	臺南縣管下臺南	淡水港ヨリ南方枋寮ニ至ル沿岸
高雄	臺南縣管下高雄	澎湖列島一圓ノ沿岸
澎湖	澎湖廳管下澎湖	

○臺灣總督府令第二十二號 (官報 四月三十日)
稅關監視署ノ名稱及位置左ノ通相定ム

附則

本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ施行ス

明治三十四年四月十三日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

名稱	位置	管轄區域
大稻埕稅關監視署	臺北縣管下大稻埕	番地稅關監視署
大安港稅關監視署	臺中縣管下大安港	八罩島稅關監視署
梧棲稅關監視署	臺中縣管下梧棲	澎湖廳管下八罩島
		澎湖廳管下流霧島

○臺灣總督府令第二十三號 (官報 四月三十日)

明治三十四年 遞信省令第十五號ハ之ヲ臺灣ニ適用ス

明治三十四年四月十七日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

(參照)

明治三十四年 遞信省令第十五號ハ船積積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁扶國政府トノ間ニ取極メ爲シタル條規ナリ

○臺灣總督府令第二十四號 (官報 五月七日)

明治三十一年一月府令第二號訴訟代人規則ハ明治三十四年五月十一日限り廢止ス

明治三十四年四月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十五號 (官報 五月十六日)

明治三十年六月府令第二十號縣廳位置及管轄區域中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年五月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺南縣管轄區域中元鳳山縣管下ノ下ニノ内恆春廳所屬ノ七字ヲ加ヘ澎湖廳ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加ス

恆春廳

宜化里恆春

宜化里、德化里、至厚里、安定里、長樂里、治平里、泰盛里、咸昌里、永靖里、仁壽里、興文里、善余里、嘉禾里一圓

○臺灣總督府令第二十六號 (官報 五月十六日)

明治三十一年六月府令第三十九號辨務署名稱位置及管轄區域臺南縣ノ部中恆春辨務署ヲ削除ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年五月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十七號 (官報 五月十六日)

明治三十一年律令第十七號臺灣地方稅規則ヲ恆春廳ニ施行ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年五月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十八號 (官報 五月三十一日)

明治三十四年三月府令第八號臺灣地方稅賦課徵收規則第四條ニ左ノ一號ヲ追加ス

明治三十四年五月 臺灣總督府令 第二十四號 第二十五號 第二十六號 第二十七號 第二十八號

八 度量衡器ノ製作、修覆及販賣ヲ爲ス者

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺灣地方稅賦課及徵收規則(明治三十四年三月二十六日官報)抄録
第四條 左ニ掲クルモノハ地方稅ヲ賦課セス

○臺灣總督府令第二十九號(官報 五月三十一日)

明治三十三年四月府令第三十七號臺灣電話交換規則中左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ其ノ

期ノ初月一日ヨリ十日マテニ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三十條 左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

一 加入登記料

一 電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

第三十三條中第三項ヲ削ル

附則
本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十七號臺灣電話交換規則(明治三十三年四月二十四日官報)抄録

第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ前期ノ末日マテニ電話交換局

ニ納付スヘシ但官廳ニ限リ第一期ハ其期ノ初月一日ヨリ二十日マテニ納付スルコトヲ得

第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十九條 加入登記料電話使用料附加使用料電話料電話線接續料機移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 前條ノ料金ハ都テ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第三十三條第三項

電話使用料及附加使用料ニ一錢未満ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ計算スヘシ

○臺灣總督府令第三十號(官報 五月三十一日)

憲兵條例第八條ニ依リ憲兵分隊ノ配置及憲兵警察區域左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年五月二十四日

憲兵分隊	同本部位置	憲兵屯所	同位置	警	察	區	域
第一	臺北縣大加蚋堡	臺北縣芝蘭三堡	大加蚋堡芝蘭三堡芝蘭三堡與直堡	大加蚋堡芝蘭三堡芝蘭三堡與直堡	大加蚋堡芝蘭三堡芝蘭三堡與直堡	大加蚋堡芝蘭三堡芝蘭三堡與直堡	大加蚋堡芝蘭三堡芝蘭三堡與直堡
第二	臺北縣北門街	臺北縣北門街	北門街	北門街	北門街	北門街	北門街
第三	臺北縣大稻埕	臺北縣大稻埕	大稻埕	大稻埕	大稻埕	大稻埕	大稻埕
第四	臺北縣基隆	臺北縣基隆	基隆	基隆	基隆	基隆	基隆
第五	臺北縣大板橋	臺北縣大板橋	大板橋	大板橋	大板橋	大板橋	大板橋
第六	臺北縣頂寮	臺北縣頂寮	頂寮	頂寮	頂寮	頂寮	頂寮
第七	臺北縣三貂堡	臺北縣三貂堡	三貂堡	三貂堡	三貂堡	三貂堡	三貂堡
第八	臺北縣文山	臺北縣文山	文山	文山	文山	文山	文山

兵 隊									
新 竹					宜 蘭				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				

兵 隊									
新 竹					宜 蘭				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				
同縣竹北一堡新 竹武營頭街					宜蘭縣員山堡五 四結庄				

民國三十四年五月 臺灣省政府令 第三十號

- 第六條 樟腦及樟腦油製造人ハ其ノ權利ヲ他人ニ賣渡讓與シ又ハ質入スルコトヲ得ス但シ家督相續ニ依リ承繼スルハ此ノ限リニアラス
- 第七條 樟腦及樟腦油製造人ハ左ノ場合ニ於テハ事由ヲ詳記シタル願書ヲ所轄臺灣總督府專賣局支局ヲ經由シ臺灣總督府專賣局長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ
 - 一 第三條ノ期間内ニ製腦ニ著手スルコト能ハサルカ爲延期セントスルトキ
 - 二 特許區域内ニ於テ腦灶ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ數ヲ増減セントスルトキ
 - 三 樟腦及樟腦油ノ特許製造高ヲ増減セントスルトキ
 - 四 樟腦及樟腦油製造ノ設計ヲ變更セントスルトキ
- 前項第二號腦灶ノ位置變更ノ場合ハ新舊腦灶ノ位置ヲ示シタル圖面ヲ添付スヘシ
- 第八條 樟腦及樟腦油製造人ハ左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ臺灣總督府專賣局長又ハ所轄支局長ニ届出ツヘシ
 - 一 各字内ニ於テ腦灶ノ位置ヲ變更シタルトキ
 - 二 腦灶増加ノ許可ヲ得テ其腦灶全數ノ製腦ニ著手シタルトキ
 - 三 樟腦及樟腦油ヲ製造後二十日以内ニ納付スルコト能ハサルトキ
 - 四 樟腦及樟腦油製造ノ完了又ハ廢業ノトキ
 - 五 樟腦及樟腦油製造ノ一部若ハ全部休業ノトキ
 - 六 家督相續ノ爲樟腦及樟腦油製造業ヲ承繼シタルトキ
 - 七 住所ヲ移轉シタルトキ
 - 八 代理人ヲシテ樟腦及樟腦油製造ニ關スル事件ヲ處理セシムルトキ
 - 九 代理人ヲ解除シタルトキ

- 十 腦長股首腦丁共ノ他備人ノ數ニ異動ヲ生シタルトキ
- 前項第一號ノ場合ハ新舊腦灶ノ位置ヲ示シタル圖面ヲ添付シ第五號ノ場合ニシテ一部休業ノトキハ其腦灶數ヲ記載スヘシ
- 製造高カ特許製造高ニ達シタルトキハ特許期間滿タスト雖此ノ時ヲ以テ製造ノ完了トシ製造高カ特許製造高ニ達セスト雖特許期間滿チタルトキハ此ノ時ヲ以テ製造ノ完了トス
- 第九條 樟腦及樟腦油製造人ハ第三號書式ニ依リ毎月ノ製造高納付高及月末現在高ヲ翌月五日マテニ臺灣總督府專賣局長又ハ所轄支局長ニ届出ツヘシ
- 第十條 特許期間内ニ於テ製造スヘキ總數量カ特許製造高ニ達スルノ見込ナシト認ムルトキハ特許製造高ヲ減少シ尙必要ト認ムルトキハ腦灶ノ幾分ヲ撤去セシムルコトヲ得
- 第十一條 樟腦及樟腦油製造特許期間中廢業シ曩ニ買受ケタル樟樹其ノ他ノ木竹ニシテ現存スルモノアルトキハ第四號書式ノ書面ヲ作り廢業届ト共ニ所轄臺灣總督府專賣局支局ヲ經由シ臺灣總督府專賣局長ニ差出スヘシ
- 賠償金額ハ賣渡當時ノ價格以內トス
- 第十二條 樟腦及樟腦油製造人ハ腦長股首腦丁、運搬夫共ノ他備人ニ左式ノ木製鑑札ヲ携帯セシムヘシ

原籍 住所	氏名	職名
表 腦丁(腦長)(股首)氏 (運搬夫等)	年 月 日	年 月 日
横 一 寸五分		
縦 三 寸		

第十三條 腦長、股首、腦丁、運搬夫其ノ他樟腦及樟腦油製造ニ關スル事務ニ從事スル備人ニシテ不正ノ行為アリト認ムルトキハ備主ニ對シテ之レカ解備ヲ命スルコトヲ得

第十四條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下第七條第一項第二號第四號ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下第四條第八條第九條又ハ第十二條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ增加シタル腦灶ハ之ヲ撤去セシム

第十五條 第一條及第十一條ノ場合ニ於テ所轄支局ナキトキハ直ニ臺灣總督府專賣局長ニ差出ス

第一號書式

樟腦及樟腦油製造願

一場 所 何縣(廳)何堡(里)何庄(街社)何山林

此面積 何程

一製腦高 樟腦 何斤

一製腦數 樟腦油 何斤

一製腦期間 何年何月何日マテ

右ヲ以テ製腦致度御許可ノ上ハ臺灣總督府及樟腦油製造規則同施行細則其他製腦ニ關スル諸規程遵守可致別紙圖面及設計書添付此段奉願候也

年月日

原籍

住所 氏名印

臺灣總督府專賣局長宛

第二號書式

樟腦及樟腦油製造設計書(製腦期間並年度以降ニ涉ルトキハ年度ニ打切り設計書ヲ調製スルモノトス)

一 製腦期間	何年何月何日マテ
二 資本金	何程
三 備人數(男、女、小童、老幼)	何人 內 本地人 何人 外人 何人
四 腦灶數	何箇
何山何字	何箇(一箇ニ付木片何斤入)
何山何字	何箇(一箇ニ付木片何斤入)
五 樹樹消費高	何本
立木	何尺
伐倒木	何本
此材積	何尺
根 株	何箇(斷面直徑平均何程)
六 雜木消費高	何本
立木	何本
此材積	何本
伐倒木	何本
此材積	何本
七 收入豫算高	何程
樟腦何斤ノ賠償金何程	
樟腦油何斤ノ賠償金何程	
計金何程	
八 支出豫算	
一器具費	金何程 (何灶分)
一製腦製造費	金何程 (何灶分)
一小區掛費	金何程 (何箇所分)
一本務所建築費	金何程 (何箇所分)
一本務員給料	金何程 (何人分)

一 運搬費 金何程
 (何人分)
 (百斤二付二里何程)
 一 雜木買受代 金何程
 一 雜木買受代 金何程
 一 生養費 金何程
 一 雜費 金何程
 一 何 金何程
 一 何 金何程
 計金何程

右之通候也
 年月日

住所
 氏名印

第三號書式
 明治 年 月中製腦高御居

種類	製造高	前月繰越高	計	納付高	現在高
樟腦					
樟腦油					
計					

右御届仕候也
 年月日

住所
 氏名印

第四號書式
 臺灣總督府專賣局長又ハ何々支局長宛
 製腦原料返還及賠償金請求書

一金何圓
 内 樟木 何程代 此單何何程
 樟根株 何程代 此單何何程
 金何圓 雜木 何程代 此單何何程
 今般何々(事由ヲ詳記スヘシ)ノ爲樟腦及樟腦油製造廢棄致候ニ付別表ノ額現存木返納仕候條右ニ對スル前記賠償金額下渡相成度請求仕候也
 年月日

住所
 氏名印

別表
 臺灣總督府專賣局長宛

返納現水明細書

原料買渡 年月番號	製腦特許 年月番號	種	本 買受消費殘存	材積尺(湖)	單價	總 買受消費殘存
何年何月 指令番號	何年何月 指令番號	樟木				
同	同	樟根株				
同	同	雜木				
計						

備考(現存スル場所及本數材積ヲ記入スヘシ)

○臺灣總督府令第三十五號 (官報 六月十七日)

明治三十三年五月府令第四十六號臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行細則中樟腦局ヲ專賣局ニ改ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年六月一日

○臺灣總督府令第三十六號 (官報 六月十七日)

明治三十二年四月府令第三十二號臺灣食鹽專賣規則施行細則中鹽務局ヲ專賣支局ニ改ム
臺灣總督府又ハ某鹽務局ヲ專賣局又ハ某專賣支局局長ヲ支局長ニ改ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年六月一日

○臺灣總督府令第三十七號 (官報 六月十七日)

明治三十二年八月府令第一百二號中鹽務局ヲ專賣支局局印及某鹽務局印ヲ某專賣支局印ニ改ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年六月一日

○臺灣總督府令第三十八號 (官報 六月十七日)

明治三十二年十月府令第一百七號軍役志願者規則左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年六月七日

軍役志願者規則

第一章 總則

第一條 軍役志願者ハ本島人ノ志願者ヲ募集シテ守備隊ニ編入シ軍事教育ヲ施シ兵卒同様ノ役務ニ服セシム

第二條 軍役志願者ハ左ノ各號ニ該當シ検査ニ合格シタル者ヲ選抜採用ス

一 年齡滿十七年以上滿二十五年以下ノ者但シ年齡ヲ算スルハ其ノ年十二月一日ヲ以テス

二 體強健精神ニ異狀ナキ者

三 服役中一家ノ生計ニ差支ナクシテ家事ニ係累ナキ者

四 行狀方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

五 一定ノ住所ヲ有シ街庄社長ノ保證シタル者

第三條 軍役志願者ハ各旅管內ノ歩兵隊ニ入營セシム但シ其ノ定員ハ當分ノ内一中隊十八トス

第二章 服役

第四條 軍役志願者ノ服役ハ滿三年トス但シ再役ヲ志願スルコトヲ得

第五條 軍役志願者ハ營內ニ居住セシムルモノトス

第六條 服役中疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者若クハ屢懲戒處分ヲ受クルモ悛改ノ狀ナキ者又ハ輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ解役ヲ命ス

第七條 服役中傷痍疾病又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲解役ヲ望ム者ハ願書ニ軍醫ノ診斷書又ハ辨務署長ノ證明書ヲ添ヘ混成旅團長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

署長ノ證明書ヲ添ヘ混成旅團長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

署長ノ證明書ヲ添ヘ混成旅團長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第三章 募集

第八條 毎年募集スヘキ軍役志願者ノ人員ハ其ノ年七月之ヲ告示ス

第九條 志願者ハ其ノ願書(第一號書式)ニ街庄社長ノ保證書(第二號書式)ヲ添ヘ辨務署長ニ差出スヘシ

出スヘシ

第十條 辨務署長ハ前條ノ願書ニ基キ毎年八月盡日マテニ別記第三號書式ニ準シ管內軍役志願者名簿ヲ編製シ地方長官ヲ經テ混成旅團長ニ差出スヘシ

第十一條 募集區域及人員並検査日割ハ混成旅團長之ヲ定メ其ノ年九月十日マテニ地方長官及募

集官長ニ告知スヘシ

第十二條 地方長官ハ前條ノ區域人員及日割ヲ關係募集區域内ニ告示スヘシ

第十三條 募集官長ハ關係辨務署長ト協議シ検査場所ヲ決定シ辨務署長ハ街庄社長ヲシテ之ヲ

志願者ニ通報セシムヘシ

第十四條 検査當日ニハ街庄社長ハ軍役志願者人名書ヲ携ヘ受檢者ヲ引率シ検査地ニ到着シテ

ルトキハ募集官長ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ但シ志願者中疾病若クハ其ノ他ノ事故ニ依リ出

場シ難キ者ハ其ノ事由ヲ募集官長ニ届出ツヘシ

第十五條 軍醫ハ軍役志願者體格検査規定ニ依リ身體ヲ検査シ體格検査表ヲ募集官長ニ差出スヘ

シ

第十六條 募集官長ハ合格者名簿(第四號書式)ヲ作り採用スヘキ順序ヲ定メ旅團長ニ報告シ其ノ

寫ヲ當該隊長及關係辨務署長ニ送付ス辨務署長ハ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十七條 採用スヘキ順序ハ合格者ノ體格、知能、身元等ヲ參酌シ募集官長之ヲ決定スヘシ

第十八條 募集官長ハ採用者ヲ決定セハ直ニ誓約書(第五號書式)ヲ徵集シ合格者名簿寫及志願者

名簿體格検査表ト共ニ當該隊長ニ送付シ該隊長ハ之ニ依テ名簿(兵籍ニ)ヲ作ルヘシ

第十九條 募集官長ハ採用決定者ノ住所姓名番號等ヲ入營令狀(第六號書式)ニ記入シ之ヲ混成旅

團長ニ提出スヘシ

第二十條 混成旅團長ハ前條ノ令狀ニ署名捺印シ地方長官ヲ經テ本人ニ交付スヘシ

第二十一條 募集要員ニ超過ノ合格者ニハ合格證書(第七號書式)ヲ與ヘ置キ補充要員ニ充ツ

第二十二條 募集官長ハ募集事務結了後十日以内ニ所見ヲ附シ募集事務ノ詳細ヲ混成旅團長ニ報

告シ混成旅團長ハ之ヲ總督ニ報告スヘシ

第四章 募集官

第二十三條 募集官ハ各募集區域毎ニ高級古參ノ隊長ヲ以テ其ノ長トシ外ニ大(中)尉一名軍醫一

名縣(廳)兵事主任官吏一名關係各辨務署長若クハ兵事主任官吏一名ヨリ成ル

第二十四條 募集官長ハ旅團長ニ隸シ當該區域内募集ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス

募集官ハ募集官長ノ指揮ニ從ヒ募集事務ヲ擔任スルモノトス

第二十五條 募集官ニハ左ノ屬員ヲ附ス

若干名

下士並通譯

關係各辨務署員並通譯 若干名

屬員ハ募集官長ノ區處ヲ受ケ募集事務ヲ補助スルモノトス

第二十六條 混成旅團長ハ募集ニ關スル事務ヲ統轄ス

第二十七條 募集官長以下ノ職員ハ混成旅團長、地方長官之ヲ任命シ互ニ通報スヘシ

第五章 給與

第二十八條 軍役志願者ニハ給料、被服並ニ入營旅費、歸郷旅費ヲ給シ糧食ハ自辨トス但シ演習又

ハ匪徒鎮壓等ノ場合ニアリテハ糧食ヲ官給ス

第二十九條 給料ハ日給トシ毎旬之ヲ給ス其ノ給額ハ第一表ニ依ル

第三十條 給料ハ入營當日ヨリ退營前日マテ之ヲ給ス但シ死亡スルトキハ其ノ當日マテ之ヲ給

ス

第三十一條 被服ハ現品ヲ給ス其ノ服裝ハ概ネ兵卒ニ同シ

第三十二條 入營及歸鄉旅費ハ第二表ニ依ル
 第三十三條 公務ノ爲傷痕若クハ疾病ニ罹リ又ハ死歿シタルトキハ手當金ヲ給ス
 第三十四條 演習用兵器彈藥ハ之ヲ官給トス

第六章 入營

第三十五條 軍役志願者ノ入營期日ハ毎年十二月一日トス但シ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ十二月一日ニ入營シ難キモノハ同月三十一日マテニ入營セシム
 第三十六條 各隊長ハ軍役志願者到着セハ更ニ身體検査ヲナシ傷痕疾病ニ依リ軍役ニ堪ヘスト認ムル者ハ直ニ歸郷ヲ命シ其ノ趣ヲ混成旅團長ニ報告シ且ツ辨務署長ニ通報スヘシ
 第三十七條 軍役志願者入隊セハ所屬中隊長ハ讀法ヲ讀開カセ宣誓セシムルモノトス
 第三十八條 軍役志願者入營ニ際シ傷痕疾病或ハ其ノ他ノ事故等ニテ入營ノ延期ヲ願フ者ハ其ノ日數ヲ豫定シ願書ニ辨務署長ノ事實證明書ヲ添ヘ混成旅團長ニ願出ツヘシ
 第三十九條 軍役志願者入營前死亡シ若クハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ十二月三十一日マテニ缺員ヲ生シ若クハ入營シ難キト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ募集區補充要員ノ列次ニ從ヒ補充スルモノトス若シ其ノ募集區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ隣接募集區ヨリ補充ス
 第四十條 前條ニ於ケル入營令狀ノ交付方ハ第二十條ニ同シ
 第四十一條 補充ノ爲召集セラレタル者ハ合格證書及入營令狀ヲ携ヘ指定ノ期日內ニ編入隊ヘ到着スヘシ
 第四十二條 補充召集ニ依リ入營セシ者ノ誓約書ハ當該隊長之ヲ徵集スヘシ

雜則

第四十三條 軍役志願者受檢ノ爲検査場ニ往復スル旅費ハ自辨トス
 第四十四條 軍役志願者入營後戸籍面ニ異動ヲ生シタルトキハ辨務署長ヨリ混成旅團長ニ報告スヘシ
 第四十五條 體格検査表、入營令狀合格證書合格者名簿、誓約書ノ用紙ハ混成旅團司令部ヨリ各募集官長ヘ交附スルモノトス

附則

第四十六條 此ノ規則ハ明治三十四年七月一日ヨリ施行ス
 第四十七條 現ニ入營中ノ軍役志願者ハ明治三十四年十一月三十日マテ明治三十二年府令第十七號ニ依ル

(別記)

第一號書式

軍役志願者願	某 姓
軍役志願ニ付御検査ノ上御採用相成度別紙保證書相添此段奉願候也	
年 月 日	
住所 職業 月主長(次)男(惟弟)	氏 名 印
	當年何歳
辨務署長宛	

第二號書式

保證書

住所 職業 戶主長(次男)(陸弟) 某

當年何十何歲

右之者今般軍役志願ニ候處行狀方正職業勉勵ノ者ニ付御採用被成下度本人入誓ノ上誓者引
受御規則嚴重ニ爲相守可申此段保證候也

年月日

街、庄、社長 氏 名印

辨務署長宛

第三號書式

明治何年軍役志願者名簿									
住 所	職 業	財 產		犯 罪	與	兄 弟	父 母	子 女	妻 氏
		本人ニ屬スルモノ	本人以外ニ屬スルモノ						
何縣何堡何街(庄)(社)	農工商又ハ何職	一家ニ屬スル計						長男 某 長女 某	某(次男)(兄)(弟)(戶主)
								祖父 某 祖母 某	何(何箇月)
									某

用紙ハ美濃半切

第四號書式

何募集區合格者名簿

用紙ハ美濃紙

成 績	順 序	第 一	第 二	第 三	第 四	第 五	體 格 採 否	教 育 知 能	程 度	編 入 隊 身 分	住 所	姓 名
甲	甲	乙	乙	乙	乙							
		採用	同	同	同	同				農 商 工	縣(街)(庄)(社)	何

第五號書式

誓約書

用紙ハ美濃半切

今般軍役志願者ニ御採用相成候ニ就テハ軍隊ノ御規則嚴重ニ相守リ誓テ軍務ニ從事可仕仍
テ誓約加件 年月日

私 儀

第六號書式

住所職業戶主長(次男(離弟))
某
當年何十何歲

混成旅團長宛

軍役志願者何募集區
縣(廳)街(庄)(社)
戶主又ハ其長(次男(兄弟))
氏 名
年 齡

甲(乙)種第何番

右軍役志願者ニ採用シ何地守備步兵第何大隊(第何中隊)ニ編入ス
年月日 臺灣守備混成第何旅團長 氏 名 印

心得

一、明治 年 月 日本証書ヲ携ヘ表記ノ守備隊ニ到着スヘシ
二、傷疾疾病或ハ其ノ他ノ事故ニテ入營ノ延期ヲ願フ者ハ其ノ日數ヲ豫定シ街(庄)(社)長ニ届出テ願書ニ辨務署長ノ事實證明書ヲ添ヘ混成旅團長ニ送付スヘシ
三、本証書ヲ遺失若クハ損壞シ再下附ヲ請フ者ハ街(庄)(社)長ニ届出テ辨務署長ヲ經テ混成旅團長ニ願出ツヘシ
四、入營途中疾病川留等ニテ滞在シタルトキハ現日數ニ應ジ日當ヲ給ス但シ醫師ノ診斷書又ハ辨務署ノ證明書ヲ添ヘ請求スヘシ
五、旅行中發病シ歩行ニ堪ヘ難クシテ醫ヲ要スルトキハ實費ヲ給ス但シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スヘシ

第七號書式

合格證書

軍役志願者何募集區
縣(廳)街(庄)(社)
戶主又ハ其長(次男(兄弟))
氏 名
年 齡

右軍役志願者検査ニ合格スルヲ以テ補充要員トス
何區募集官長 官 姓 名 印

年月日

心得

一、補充要員ハ軍役志願者ノ缺員アル場合ニ於テ召集セラルルモノトス
二、補充ノ爲召集セラレタルトキハ本証書及入營令狀ヲ携ヘ指定ノ期日內ニ編入隊ヘ到着スヘシ
三、本証書ハ翌年一月三十一日マテ其ノ效ヲ有スルモノトス
四、本証書ヲ遺失若クハ損壞シ再下附ヲ請フ者ハ街(庄)(社)長ニ届出テ辨務署長ヲ經テ混成旅團長ニ願出ツヘシ

第一表

給料	
等 級	日 給
一 等 金	二 十 七 錢

一 午後十二時ヨリ午前六時マテ	一 時間マテ毎ニ	二十圓
一 午前六時ヨリ同八時マテ	一 時間マテ毎ニ	十五圓
臨時開廳ハ平日午前八時ヨリ同十時マテ及午後四時ヨリ同六時マテハ二時間未滿ヲ其ノ他ハ三時間未滿ヲ許サス		
税關支署 <small>基隆及打狗臨時開廳特許手数料</small>		
一日出ヨリ日没マテ	一 時間マテ毎ニ	五圓
一日没ヨリ日出マテ	一 時間マテ毎ニ	七圓五十錢
臨時開廳ハ單ニ出入港届ヲ爲スニ止マルトキハ税關及税關支署トモ其ノ特許手数料ハ半額トス		
税關及税關支署貨物積卸送致引取及發送特許手数料		
一日出ヨリ日没マテ	西洋形船ハ一時間マテ毎ニ	二圓
	日本形船及支那形船ハ一時間マテ毎ニ	一圓
一日没ヨリ日出マテ	西洋形船ハ一時間マテ毎ニ	三圓
	日本形船及支那形船ハ一時間マテ毎ニ	一圓五十錢
税關及税關支署構外検査特許手数料		
一 検査ニ要スル時間	一 時間マテ毎ニ	三圓
但旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ		
外國貿易船不開港出入特許手数料		
一 一回ニ付		十圓
臺灣關稅規則施行細則第七十六條ニ依ル手数料		
一 證明	每一件	二圓
一 輸出入貨物日計表	每一箇月	二十圓

一 其他船舶貨物ニ關スル計表	每一件	五圓乃至
臺灣關稅規則施行細則第九十七條ニ依ル使用料		
一 解橋	船舶一隻ニ付	一日
一 土地	一坪ニ付	一箇月
一 建物	一坪ニ付	一箇月
土地建物ノ使用料ハ一箇月未滿ナルトキハ十五日マテハ半箇月分十五日ヲ超ユルトキハ一箇月分ヲ徴收ス		

○臺灣總督府令第四十一號(官報七月十日)

明治三十一年十月十二日府令第四百十一號臺灣公學校教諭檢定規則第五條中二十一歲ヲ二十歲ニ改ム

明治三十四年六月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔参照〕

- 臺灣總督府令第四百十一號臺灣公學校教諭檢定規則(明治三十一年十二月十七日抄録)
- 第五條 檢定ヲ請フ者ハ年齡滿二十一歲以上四十五歲以下ニシテ身體健全品行方正且左ノ資格ノ一ヲ具フルコトヲ要ス
- 一 臺灣總督府屬諸學校師範部卒業生或同校所定ノ講習ヲ修了シタル者
 - 一 内地ニ於テ滿三箇年以上小學校教員ノ職ニ從事シ且臺灣土語ヲ習得シタル者
 - 一 滿五箇年以上臺灣公學校訓導ノ職ニ從事シ品行優異學術造詣深ト認メ地方長官ニ於テ特ニ具申シタル者

○臺灣總督府令第四十二號(官報七月十六日)

明治三十四年勅令第三百二十號臺灣總督府警察官吏服制ハ明治三十四年七月一日ヨリ施行ス
地方長官ニ於テ止ムヲ得スト認ムルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ従前ノ制服ヲ著用セシムルコトヲ得但シ冬服ハ夜間又ハ雨天ノ時ノミニ限ル

明治三十四年七月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第四十三號（官報 七月十六日）

臺灣土地收用規則施行規則左ノ通相定ム

明治三十四年七月四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 臺灣土地收用規則第七條ニ依リ申請ヲナス爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り土地物件ノ調査ヲ爲スコトヲ得宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務官廳ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ起業者カ土地ニ立入り土地物件ノ調査ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ受ケタル一定ノ證票ヲ携帯スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ起業者カ邸内ニ立入ルトキハ豫メ其占有者ニ通知スヘシ但シ日出前日没後ハ占有者ノ承諾ヲ受クヘシ

第三條 臺灣土地收用規則第七條ニ依ル申請ハ左ニ掲ケタル事項ノ調査及事業計畫書並圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ

一 土地ノ番號地目又ハ位置並其ノ面積

二 物件ノ種類數量但シ收用又ハ使用スヘキ物件ト移轉ヲ要スル物件トアルトキハ其ノ區分

三 使用ノ期間

四 關係人ノ氏名

五 損失補償ノ見積金額並内譯

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務官廳ハ前項ノ書類ヲ直ニ臺灣總督ニ提出ス

ヘシ

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺廟宇境内地

五 名所舊蹟

第五條 臺灣土地收用規則第六條ニ依ル臺灣總督ノ指定ハ公告ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ公告ハ府報ヲ以テ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ起業者事業ノ種類收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目又ハ位置並其ノ面積及收用又ハ使用スヘキ物件ノ種類數量使用ノ期限ヲ記載スヘシ

第六條 臺灣土地收用規則第九條ニ依リ起業者カ辨務署長ノ指定ヲ受ケントスルトキハ事業ノ種類使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メタル調書ヲ添付スヘシ

辨務署長カ指定ヲ爲シタルトキハ起業者事業ノ種類使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ關係人ニ通知スヘシ

第七條 臺灣土地收用規則第十條ニ依リ起業者カ地方長官ノ指定ヲ受ケントスルトキハ工事計畫書圖面及其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係並第三條各號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ申請又ハ通知スヘシ

臺灣土地收用規則第十五條ニ依リ起業者カ地方長官ノ指定ヲ受ケントスルトキハ物件ノ種類數
量損失補償ノ見積金額並内譯及移轉料ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請又ハ通知スヘシ

第八條 前條地方長官ノ指定ハ公告ヲ以テシ共ノ第一項ノ公告ニハ第五條第二項ニ掲ケタル要件
ヲ記載シ第二項ノ公告ニハ物件ノ種類及數量ヲ記載スヘシ

第九條 臺灣土地收用規則第十三條ノ補償ハ各人別ニ見積リ之ヲ爲スヘシ但シ各人別ニ見積リ難
キトキハ此限ニアラス

第十條 臺灣土地收用規則第十四條第一項ニ依リ起業者又ハ關係人カ地方長官ノ裁決ヲ求メント
スルトキハ其ノ協議調ハサル事由又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ記載シタル書類ヲ提出ス
ヘシ此場合ニ於テハ地方長官ハ直ニ之ヲ關係人又ハ起業者ニ通知スヘシ

第十一條 起業者又ハ關係人ハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ意見書ヲ差
出スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後七日以内ニ裁決スヘシ

地方長官前項ノ期間内ニ於テ裁決ヲ爲スコトヲ得サル事由アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ延
期ヲ爲スコトヲ得

第十三條 地方長官ノ裁決ハ起業者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 地方長官ニ於テ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ起業者及關係人ニ送達スヘ
シ

第十五條 臺灣土地收用規則第十四條第二項ノ規定ニ依リ起業者又ハ關係人カ臺灣總督ノ裁定ヲ
求メントスルトキハ第三條又ハ第六條又ハ第七條ニ規定シタル事項ヲ記載セル書類並裁決書謄

本及意見書ヲ添付シ申請スヘシ

第十六條 起業者及關係人カ臺灣土地收用規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル手續
其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第十七條 先取特權質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償
金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヘヲ爲スヘシ

第十八條 事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタラント
キハ舊業主又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受クルコトヲ得

第十九條 前條ノ土地アルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出又ハ通知スヘシ
地方長官前項ノ届出又ハ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ管内ニ公告スヘシ

○臺灣總督府令第四十四號 (官報 七月十六日)

明治三十一年九月府令第九十二號地方土地調查委員會規則中左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年七月九日

第二條中四人ヲ「六人」ニ改ム

第四條中三名ヲ「五人」ニ改ム

〔参照〕

臺灣總督府令第九十二號地方土地調查委員會規則(明治三十一年九月十七日官報)抄録

第二條 土地調查委員會ハ會長一人委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 土地調查委員會ハ會長及委員ヲ合シテ出席員三名以下ナルトキハ開會スルコトヲ得ス

明治三十四年七月 臺灣總督府令 第四十四號

明治三十四年七月 臺灣總督府令第四十五號 第四十六號 臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判
任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

九六

○臺灣總督府令第四十五號 (官報 七月三十一日)

明治三十三年^{十二}府令第二百二十號臺灣總督府鐵道部運輸規程中左ノ通改正ス

明治三十四年七月十七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第七十八條ニ左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ運送哩程ハ鐵道部ニ於テ時宜ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得此場合ニ在テハ關係各停車場
ニ揭示スヘシ

〔參照〕

臺灣總督府令第四百二十號臺灣總督府鐵道部運輸規程(明治三十三年十二月二十六日官報)抄錄

第七十八條 運送哩程ハ通常扱ノ場合ハ十五哩未滿ハ十五哩實切車扱ノ場合ハ二十哩未滿ハ二十哩ノ運賃ヲ徵ス但一哩未
滿ハ一哩ニ切上ク

○臺灣總督府令第四十六號 (官報 七月三十一日)

臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則
左ノ通相定ム

明治三十四年七月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判

任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

第一條 明治三十三年法律第七十七號ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際

勤務セシ學校所屬地方長官ニ差出スヘシ

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職中ノ履歷書

二 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本若クハ辨務署長ノ證明シタル戶籍謄書

第三條 明治三十三年法律第九十一號第四條ニ依リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外

尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

二 醫師ノ診斷書

明治三十三年法律第七十七號第三條第二項ニ依リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外

尙醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認メタルトキハ退隱料年

額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ臺灣總督ニ差出スヘシ

地方長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認メタルトキハ意見ヲ具シテ臺灣總督ニ差出スヘシ

第五條 臺灣總督ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料證書ヲ作り地方長官ヲシテ之ヲ本

人ニ交付セシム但シ退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返

納セシム

第六條 明治三十三年法律第九十一號第十條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ

作り在職中ノ履歷書ヲ添付シ退職ノ際勤務セシ學校所屬地方長官ニ差出スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第七條 明治三十三年法律第九十一號第十二條第十三條第十四條若クハ明治三十三年法律

第七十七號第三條第三項ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求

書ヲ作り親族二名親族ナキトキハ近鄰ノ戶主二名連署シ辨務署長ノ證明ヲ經退隱料ヲ受ケスシ

明治三十四年七月 臺灣總督府令 第四十六號

臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判
任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

九七

テ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勸務セシ學校所屬地方長官ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ
地方長官ハ其ノ所屬學校職員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ノ書類ヲ遺族ニ交付スヘシ

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本又ハ辨務署長ノ證明シタル戶籍調書及左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 明治二十三年法律第九十一號第十二條第一第二第十四條ニ當ル者ノ請求書ニハ地方長官ヨリ交付シタル死者ノ履歷書

二 明治二十三年法律第七十七號第三條第三項ニ當ル者ノ請求書ニハ地方長官ヨリ交付シタル死者ノ履歷書及醫師ノ診斷書

三 明治二十三年法律第九十一號第十二條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

四 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診斷セシメタルトキハ其ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第三ノ書類

五 扶助料ヲ受ケル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキハ其ノ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

六 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判宣告書

七 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類公務ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第五ノ書類

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認メタルトキハ扶助料年額計算書又ハ扶助金計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ臺灣總督ニ差出スヘシ
地方長官ニ於テ請求ノ理由ナレト認メタルトキハ意見ヲ具シテ臺灣總督ニ差出スヘシ

第十條 臺灣總督ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方長官ヲシテ本人ニ交付セシム其ノ扶助金ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ

第十一條 明治二十三年法律第九十一號第十三條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ル但シ癩疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十二條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ニ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス
退隱料又ハ扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ本人居住地ノ地方長官ヲ經テ支給ス但シ權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十三條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者其ノ金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ以テ其ノ受領權アルコトヲ證明スヘシ

第十四條 退隱料ヲ受クヘキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日ヲ以テ支給ニ終ル

- 二 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受ケルトキハ其ノ給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ停メ其ノ給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 第十五條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル
 - 一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日、重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
 - 二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
 - 三 公權停止中轉給ヲ受クヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル
- 第十六條 明治二十三年法律第九十一號第四條ニ掲ケタル增加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ
 - 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
 - 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
 - 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
 - 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
 - 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
 - 第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二
- 第十七條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者轉籍若クハ寄留スルトキハ從來居住地ノ地方長官及轉籍

- 若クハ寄留シタル地ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 地方長官ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ甲乙兩廳間互ニ其ノ者ニ係ル退隱料又ハ扶助料支給方ノ受繼ヲ爲シ臺灣總督ニ報告スヘシ
- 第十八條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍地辨務署長ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ地方長官ニ報告スヘシ
- 第十九條 退隱料ヲ受ケル者公務ニ就キタルトキハ其ノ所屬主長ヨリ退隱料ヲ交付スヘキ地方長官ニ報告スヘシ解職シタルトキ亦同シ
- 其ノ有給者ニ係ル報告書ニハ給料額及給料ノ支給ヲ始ムル日解職ノトキハ支給ヲ終リタル日ヲ附記スヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキハ其ノ時々之ヲ報告スヘシ
- 第二十條 地方長官ニ於テ第十八條第十九條ノ報告ヲ受ケタルトキハ退隱料又ハ扶助料ノ交付ヲ止メ臺灣總督ニ報告スヘシ其ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ臺灣總督ニ納付スヘシ
- 第二十一條 地方長官ハ第五條又ハ第十條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ本籍地辨務署長又ハ市町村長ニ通知スヘシ
- 第二十二條 水火盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ辨務署長又ハ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ地方長官ニ届出ヘシ
- 地方長官ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ臺灣總督ニ申出ヘシ臺灣總督ハ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り地方長官ヲシテ本人ニ交付セ

前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ原本ハ本證書ト同一效力アルモノトス

第二十三條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添ヘ居住地ノ辨務署長又ハ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ地方長官ニ届出ヘシ地方長官ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ署名捺印シテ本人ニ交付シ臺灣總督ニ報告スヘシ

○臺灣總督府令第四十七號(官報 七月三十一日)

臺灣醫生免許規則左ノ通相定ム

明治三十四年七月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣醫生免許規則

- 第一條 醫生トハ此規則ニ依リ地方長官ノ免許ヲ得其ノ管轄内ニ於テ醫師ノ業ヲ爲ス者トス
- 第二條 左ノ資格ヲ有スル者ニシテ醫生免許證ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添付シ地方長官ニ出願スヘシ
- 一 本島人ニシテ丁年以上ノ者
 - 二 此ノ規則施行以前本島ニ於テ醫生ノ業ヲ爲シタル者
- 第三條 地方長官ハ前條ノ出願者ニ就キ醫師ノ業ヲ爲スニ適當ト認ムルトキハ醫生免許證ヲ下付スヘシ
- 第四條 醫生免許證ヲ毀損シ失シ又ハ氏名ヲ變換シタル者ハ地方官廳ニ再下付又ハ書換ヲ出願スヘシ
- 第五條 醫生免許證ヲ得ル者ハ下付ノ際手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第六條 醫生免許證ノ再下付又ハ書換ヲ請求スル者ハ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ

第七條 醫生其ノ業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ地方長官ハ其ノ業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得

第八條 地方長官ハ第七條ニ依リ禁止ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ免許證ヲ取上クヘシ其ノ停止ノ處分ニ係ルモノハ停止期間ヲ免許證ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第九條 醫生醫術ニ關シテハ臺灣公醫ノ監督ヲ受ク

第十條 醫生取締ニ係ル規定ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ定ム

附則

第十一條 此ノ規則ニ依リ醫生免許證ヲ下付スルハ明治三十四年十二月三十一日限リトス

○臺灣總督府令第四十八號(官報 七月三十一日)

臺灣公共埤圳規則施行規則左ノ通相定ム

明治三十四年七月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣公共埤圳規則施行規則

- 第一條 臺灣公共埤圳規則及此ノ規則ニ於テ利害關係人ト稱スルハ公共埤圳ノ爲利害ヲ受クル土地ノ業主佃戶及埤圳主ヲ謂フ
- 第二條 臺灣公共埤圳規則第一條及同第二條ニ依ル公共埤圳及其ノ區域ノ認定ハ知事廳長之ヲ爲シ其ノ管内ニ告示スヘシ
- 第三條 前條ノ告示アリタルトキハ利害關係人ハ告示ノ日ヨリ六十日以内ニ埤圳ニ關スル規約ヲ設ケ知事廳長ノ認可ヲ受クヘシ但シ知事廳長ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ相當ノ期間

延期ヲ與フルコトヲ得

第四條 公共埤圳ノ利害關係人ハ組合ヲ組織スルコトヲ得

第五條 公共埤圳ノ利害關係人ハ管理者ヲ定メ知事廳長ノ認可ヲ受クヘシ但シ公共ノ利益ヲ保全スル爲メハ特別ノ事情ニ依リ必要ト認メタルトキハ知事廳長ハ特ニ管理者ヲ指定シ又ハ代テ之ヲ管理スルコトヲ得

第六條 公共埤圳規約ニ規定スヘキ概目左ノ如シ

- 一 組合及組合會ヲ設クルトキハ其ノ組織權限
- 二 埤圳ノ管理方法埤圳事務ニ從事スル者ノ職名人員在職年限職務權限及選任ノ方法
- 三 埤圳管理ニ關スル水租及費用ノ負擔收支ノ方法其ノ他埤圳關係者間ニ於ケル權利義務ノ關係
- 四 以上ノ外特ニ必要ナル事項

第七條 臺灣公共埤圳規則第三條ニ依リ埤圳ノ新設又ハ公共埤圳變更ノ認可ヲ請フトキハ發起人又ハ管理者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル願書ヲ知事廳長ニ提出スヘシ

- 一 新設又ハ變更ニ關スル設計ノ大略及其ノ埤圳ノ名稱
- 二 起業費出資ノ方法及其ノ收支豫算
- 三 埤圳敷地ノ充用方法他人ノ業地ヲ使用スルトキハ業主又ハ其ノ土地ニ權利ヲ有スル者トノ關係
- 四 起工ノ豫定年月及竣工ノ豫定期限
- 五 埤圳ノ水源埤ノ所在地圳路ノ通過スヘキ場所ノ地名灌溉田園ノ甲數

六 埤圳ノ管理及其ノ費用負擔ノ方法

七 埤圳變更ニ關シテハ舊埤圳ノ處分方法

八 以上ノ外特ニ必要ナル事項

第八條 前條工事ノ竣工シタルトキハ其ノ竣工ノ日ヨリ三十日以内ニ發起人又ハ管理者ヨリ竣工ノ年月日及事業費ノ收支決算ヲ具シ知事廳長ニ届出ヘシ

第九條 公共埤圳ノ管理者ハ毎年度歲入出豫算ヲ調製シ知事廳長ノ認可ヲ受ケ其ノ決算ハ知事廳長ニ報告スヘシ但シ豫算調製及決算報告ノ時期ハ知事廳長之ヲ定ム

第十條 臺灣公共埤圳規則第六條ニ依リ權利者ニ於テ水租及費用ノ徵收ヲ辨務署長ニ請願セントスルトキハ義務者ノ負擔額及其ノ住所氏名並負擔ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ辨務署長ニ提出スヘシ

第十一條 前條ノ請願ニ基ク徵收金ヲ權利者ニ交付スルトキハ收入及缺損等ニ係ル員數並其ノ理由ヲ記載シタル仕譯書ヲ添付スヘシ

第十二條 臺灣公共埤圳規則第三條ニ依リ公共埤圳廢止ノ認可ヲ請フトキハ管理者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ知事廳長ニ提出スヘシ

- 一 廢止ニ歸スヘキ埤圳ノ名稱
 - 二 廢止ニ歸スヘキ埤圳ノ敷地及附屬財産ノ處分方法
 - 三 埤圳ニ附帶スル負債ノ整理方法
 - 四 以上ノ外特ニ必要ナル事項
- 第十三條 公共埤圳ニ關スル權利ヲ買賣讓與シ又ハ質入書入ト爲サントスルトキハ關係人及管理

者ニ於テ其ノ事由契約ノ條件、對約者ノ住所氏名ヲ記載シ知事廳長ノ認可ヲ受クヘシ
公共埤圳ノ認定ヲ受ケタル前既ニ質入書入ノ成立ヲタルモノハ其ノ認定ノ告示アリタル日ヨリ
二十日以内ニ管理者ハ其契約關係及對約者ノ住所氏名ヲ知事廳長ニ申告スヘシ
前二項ノ契約ノ條件ヲ變更セントスルトキハ其ノ變更スヘキ事由及條件ヲ記載シ知事廳長ノ認
可ヲ受クヘシ

第十四條 前條ノ契約解消ニ歸シタルトキハ其ノ解消シタル日ヨリ十五日以内ニ關係人及管理者
ハ解消ノ事由ヲ記載シ知事廳長ニ届出ツヘシ

第十五條 臺灣公共埤圳規則第八條ニ依ル過怠金ハ辨務署長ノ處分ニ係ルモノハ五十圓以下知事
廳長ノ處分ニ係ルモノハ三百圓以下トシ判職ハ知事廳長ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 臺灣公共埤圳規則第十一條ノ水利ニ關スル爭議ハ廳長又ハ辨務署長之ヲ裁決ス其ノ裁
決ヲ求メントスル者ハ關係人ノ住所氏名及爭議ノ事實並要索ノ目的ヲ記載シタル書面ヲ廳長又
ハ辨務署長ニ提出スヘシ

第十七條 辨務署長ノ裁決ニ服セサル者ハ其ノ裁決牒本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ知
事ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第十八條 前條ノ申請ハ第十六條ニ記載シタル事項及辨務署長ノ裁決ニ服スルコト能ハサル事由
ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 臺灣公共埤圳規則第十一條ノ裁決ハ其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ牒
本ヲ爭議者ノ雙方ニ交付スヘシ

○臺灣總督府令第四十九號(官報 七月三十一日)
明治三十四年律令第六號臺灣公共埤圳規則ハ明治三十四年九月一日ヨリ施行ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十號(官報 八月九日)
臺灣總督府各一、二等郵便電信局ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年七月三十一日

○臺灣總督府令第五十一號(官報 八月三十一日)
明治二十九年八月府令第二十九號臺灣總督府雇員備員死歿傷殘手當規則施行細則中左ノ通改正ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎
明治三十四年八月十七日
第一條及第二條中臺灣總督府鐵道部ノ次ニ臨時臺灣基隆築港局及臺灣總督府專賣局ヲ追加ス

〔參照〕

臺灣總督府令第二十九號臺灣總督府雇員備員死歿傷殘手當規則施行細則(明治二十九年九月十四日官報)抄録

第一條 明治二十九年勅令第八十號ニ依リ手當金ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ書類ヲ具シ臨、臨時臺灣土地調
査局、臺灣總督府鐵道部所屬ノ者ニ在テハ各其長官ニ其他ニ在テハ各其所屬官衙ヲ經テ臺灣總督ニ願出ツヘシ

死歿者

一願書 履歷書 主任醫員ノ死歿證書

一願書 戶籍吏又ハ辨務署長ノ證明シタル戸籍調査

傷疾疾病者

一願書 主任醫員ノ診斷書

第二條 所屬官衙ノ長前條ノ書面ヲ受ケタルトキハ其當否ヲ審査シタル上手當金ヲ支給スヘキモノト認ムルトキハ臨、臨時
臺灣土地調査局、臺灣總督府鐵道部所屬ノ者ニ對シテハ各其長官之ヲ專決施行シ其他ニ在テハ之ヲ意見ヲ具シ臺灣總督
ニ上申スヘシ

○臺灣總督府令第五十二號

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ種目ニ左ノ一號ヲ追加ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎
明治三十四年八月十七日

一醫生免許證書繳料

○臺灣總督府令第五十三號(官報八月三十一日)
臺中縣ニ臨時臺灣土地調查局臺中支局ヲ置ク
明治三十四年八月二十一日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十四號(官報九月十七日)

明治三十三年四月府令第三十七號臺灣電話交換規則中左ノ通改正ス

明治三十四年八月三十一日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

第二條但シ書ヲ左ノ如ク改ム

但シ官廳用ニ供スルモノハ此ノ區域ニ拘ハラズ加入セシムルコトアルヘシ

第十四條第一項ニ左ノ但シ書ヲ追加ス

但シ第二條但シ書ニ依ル加入ハ官廳相互間ノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二十條但シ書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第二條但シ書ニ依ル加入申込者ハ此ノ限リニアラス

第二十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

第三條但シ書ニ依ル加入者ハ特別加入區域ニ屬スル加入者ノ例ニ依リ附加使用料ヲ納ムヘシ

第三十四條但シ書ヲ削リ左ノ一項ヲ追加ス

第二條但シ書ニ依ル加入申込者ハ電話交換局ノ指示スル處ニ從ヒ其ノ普通加入區域外ニ係ル電話線路ヲ建設シ之ヲ當該電話交換局ニ引渡スヘシ其ノ加入後移轉ノ爲線路ノ新設ヲ要スル場合

亦同シ

【參照】

臺灣總督府令第三十七號臺灣電話交換規則(明治三十三年四月二十四日官報)抄錄

第三條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム但官廳用ニ供スルモノハ此區域ニ依ラサルコトヲ得

第二十條 加入申込者ハ加入證料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ因スル加入申込者ハ別ニ電話線接続料ヲ納ムヘシ
但第三十四條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス
第三十四條 加入者ノ使用ニ供スル電話線電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス但官廳用ニ供スルモノハ特
ニ必要アル場合ニ限り本條ニ依ラサルコトヲ得

○臺灣總督府令第五十五號 (官報 九月十七日)

明治三十四年 二月 府令第五號臺灣囚人及刑事被告人押送規則中第八條ノ二左ノ通改正ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年九月三日

一 貨幣ハ郵便爲替又ハ銀行爲替ヲ以テ之ヲ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若クハ押送期間一日以
上ニ互ラサル場合ハ之ヲ押送官吏ニ託スルコトヲ得

〔參照〕

臺灣總督府令第五號臺灣囚人及刑事被告人押送規則(明治三十四年三月四日官報)抄録
第八條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ送致スルモノハ別記難形ノ様式ニ從ヒ送致金品目錄ヲ調製シ左
ノ例ニ依リ取扱フヘシ
一 貨幣ハ保管金貯蓄ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但五圓未滿ノ金額若クハ押送期間一日以上ニ互ラサル場合ハ之ヲ押送官
吏ニ託スルコトヲ得

○臺灣總督府令第五十六號 (官報 十月二日)
砂糖消費税法施行細則左ノ通相定ム

明治三十四年九月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

砂糖消費税法施行細則

- 第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セントスル者ハ一製造場毎ニ製造場及製造スヘキモノノ種類ヲ定
メ其ノ住所氏名ヲ記シ所轄辨務署ニ申告スヘシ
前項ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄辨務署ニ申告スヘシ
- 第二條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨所轄辨務署ニ申告スヘシ
- 第三條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セントスルトキハ其ノ種類、量目
及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ
- 第四條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラントスル者ハ外國へ輸出ノ目的ヲ
以テスルモノト否トニ區別シ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、斤量ヲ所轄辨務署ニ申告スヘシ
- 第五條 砂糖消費税法第四條第一項但シ書ニ依リ消費稅ノ徵收猶豫ヲ請ハントスル者ハ前條ノ申
告ト同時ニ其ノ旨所轄辨務署ニ申請スヘシ
- 第六條 第四條ノ申告アリタルトキハ辨務署ハ砂糖消費税法第三條ノ種別及斤數ニ依リ其ノ直チ
ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ之カ徵收ノ手續ヲ爲シ消費稅ノ徵收猶豫ノ申請アルモノ又ハ直チ
ニ消費稅ノ徵收ヲ要セサルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ
- 第七條 砂糖消費税法第四條及第五條ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及左ニ列記スル有價
證券ニ限ル

一 利付國債證券及地方債券

二 政府ノ保護又ハ特別監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券
第八條 砂糖消費稅法第四條及第五條ニ依リ提供スル擔保物ハ之ヲ供託シ共ノ供託受領證ヲ所轄
辨務署ニ提出スヘシ但辨務署所在地ニ金庫ナキトキハ之ヲ供託セスシテ所轄辨務署ニ提供スル
コトヲ得

前項但シ書ニ依リ辨務署ニ於テ擔保ノ提供ヲ受ケタルトキハ當該官吏ハ擔保領收證ヲ擔保提供
者ニ交付シ之ヲ供託スヘシ

第九條 有價證券ノ價格減少シタリト認メタルトキハ所轄辨務署ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ
得

第十條 砂糖消費稅法第四條第五條ニ依リ納稅若クハ擔保ヲ提供シタルトキハ所轄辨務署ハ納稅
人若クハ擔保提供者ニ對シ引取承認書ヲ下付スヘシ

第十一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラントスル者ハ其ノ引取ノ際前條
ノ引取承認書ヲ製造者稅關又ハ保稅倉庫ニ交付スヘシ製造者、稅關又ハ保稅倉庫ハ前項引取承
認書ノ交付ヲ受ケ砂糖、糖蜜、糖水ノ納稅濟又ハ擔保提供濟ナルコトヲ認メタル後ニアラサレハ
現品ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 砂糖消費稅法第四條第五條ニ依リ納稅若クハ擔保ヲ提供シタル砂糖、糖蜜、糖水ヲ本島
外へ搬出セムトスルトキハ所轄辨務署ニ申出納稅濟證明書又ハ擔保濟證明書ノ下付ヲ受ケ運搬
ノ際之ヲ現品ニ添付スヘシ

第十三條 前條ノ納稅濟證明書又ハ擔保濟證明書ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シ若クハ内地へ

輸送ノ際之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十四條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ砂糖、糖蜜、糖
水引取承認後六箇月以内ニ左ノ書類ヲ添付シタル申請書ヲ所轄辨務署ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類
第十五條 砂糖消費稅法第四條第二項及第五條第二項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ
公告シ公告初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ決行スヘシ

第十六條 前條ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其他必要ノ事
項ヲ記載スヘシ

第十七條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十八條 砂糖消費稅法第四條第二項但シ書及第五條第二項但シ書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘ
キ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第十九條 砂糖消費稅法第十一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サントスル者ハ原料トスヘキ砂糖又
ハ糖蜜ヲ製造場ニ移入スルトキ其種類、量目及使用ノ時期ヲ所轄辨務署ニ申告シ豫メ使用ノ承
諾ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得テ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ其ノ種類、量目ヲ所轄辨務署ニ申告ス
ヘシ其ノ製造ニ際シ副產物ヲ生シタルトキ亦同シ

第二十條 前條ノ承認ヲ受ケントスル者ハ納稅シタル辨務署ニ申出テ納稅濟證明書ノ下付ヲ受ケ
置キ前條第一項ノ申告書ニ添付スヘシ

第二十一條 砂糖消費稅法第十一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルトキハ申請書ヲ所轄辨務署ニ提出スヘシ

第二十二條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類量目他ヨリ引取ケタルモノニ在テハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名

二 使用シタル原料ノ種類量目及其使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所氏名

第二十三條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格引取ノ日及其引渡人ノ住所氏名

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格販賣ノ日及其買受人ノ住所氏名

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名ハ記載ヲ要セス

第二十四條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他

ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十五條 第十一條第二項ニ依リ製造者ニ於テ交付ヲ受ケタル引取承認書ハ交付ノ日ヨリ又第

二十二條及第二十三條ノ帳簿ハ使用濟ノ日ヨリ各二箇年間保存スルヲ要ス

第二十六條 第二十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 引取承認書、納稅濟證明書、擔保濟證明書及擔保領收證ハ別記書式ニ依ル

附則

第二十八條 砂糖消費稅法第十九條ニ依ル申告ハ本則第一條ニ準シテ之ヲ所轄辨務署ニ申告ス

(別記)

引取承認書(用紙適宜 縦ニ寸五分)

(△印ハ朱印)

印付日	何種	種類	斤	斤
△ 何種何年何月何日		斤	斤	斤
		斤	斤	斤
印者取扱				印

砂糖、糖蜜、糖水引取承認書

納稅濟證明書及擔保濟證明書(用紙適宜 縦四寸五分)

第何號	砂糖、糖蜜、糖水納稅濟(擔保濟)證明書
-----	---------------------

印付日	何種	種類	斤	斤
△ 何種何年何月何日		斤	斤	斤
		斤	斤	斤
印者取扱				印

右納稅濟者ハ擔保提供濟ナルヲ證ス

種類	斤	量
對印	第何種	何
付日	△ 何年何月何日 何年何月何日 何年何月何日	
印者	採取	印

擔保領收證甲 (用紙適宜 縦四寸五分)

第何號 擔保提供者 住所氏名 何堡何庄 何 某

一金何程

但砂糖消費稅法第何條第何項ニ依リ提出ノ分

明治何年何月何日領收 印

第何號 擔保提供者 住所氏名 何堡何庄 何 某

一金何程

但砂糖消費稅法第何條第何項ニ依リ提出ノ分

右領收候也

明治何年何月何日 何辨務署輸入輸出外現金出納官吏 官 氏 名 印

證收領保擔

擔保領收證乙 (用紙及寸法適宜)

第何號 擔保提供者 住所氏名 何堡何庄 何 某

一何々公債證券額面何圓也 何圓券何第何番ヨリ何番マテ何枚(以下之ニ同シ)

(全額拂込未済ノモノハ此處ニ拂込額記入ヲ要ス以下同シ)

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ) 又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

擔保提供ノ原因 砂糖消費稅法第四條第一項但書(又ハ第五條第一項)

明治 年 月 日領收 印

第何號 擔保提供者 住所氏名 何堡何庄 何 某

一何々公債證券額面何圓也 何圓券何第何番ヨリ何番マテ何枚(以下之ニ同シ)

(全額拂込未済ノモノハ此處ニ拂込額記入ヲ要ス以下同シ)

但何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ) 又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

擔保提供ノ原因 砂糖消費稅法第四條第一項但書(又ハ第五條第一項)

右領收候也

明治 年 月 日 何地辨務署長 官 氏 名 印

證收領保擔

○臺灣總督府令第五十七號(官報十月九日)
明治三十四年律令第三號臺灣土地收用規則ヲ明治三十四年九月二十七日ヨリ臺南縣臺南市街及永康下里ニ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年九月二十六日

○臺灣總督府令第五十八號(官報十月九日)
臺灣汽船職員試驗規程左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年九月二十八日

臺灣汽船職員試驗規程

第一章 受験申請

- 第一條 臺灣汽船職員規則ニ依リ海技免狀ヲ受有セントスル者ハ此規程ニ從ヒ試験ヲ受クヘシ
- 第二條 試験ハ臺灣海事局ニ於テ毎月十五日之ヲ執行ス但シ當日休暇日ナルトキハ繰下ケトス前項ノ定日外ニ臨時試験ヲ執行スルノ必要アリト認ムルトキハ期日ヲ定メ之ヲ告示ス
- 第三條 試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日七日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ其ノ履歷書、身分書及海技免狀受有者ニ在テハ海技免狀ノ寫ヲ添ヘ受験申請書ヲ臺灣海事局ニ差出スヘシ臨時試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日三日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 履歷ハ左ニ掲グル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ
 - 一 商船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官吏公吏ノ證明書
 - 二 海軍艦船艇共ノ他官廳所屬船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官廳若クハ艦船艇ノ辭令書若クハ證明書

三 學校若クハ工場ニアリタル履歷ニ付テハ當該學校若クハ工場ノ卒業證書若クハ證明書

第五條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本島人ニ在テハ本人居住地ノ辨務署長内地人ニ在テハ本籍地ノ戶籍吏外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受クヘシ

- 一 原籍地、身分及氏名
- 二 生年月日

三 臺灣汽船職員規則第六條第一號及第二號ニ掲グル事項ニ該當セサルコト

第六條 受験申請者ハ體格検査ニ付テハ二十錢學術試験ニ付テハ其ノ試験ノ種類ニ從ヒ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

甲種船長	五圓
甲種一等運轉士	三圓
甲種二等運轉士	二圓
乙種船長	三圓
乙種一等運轉士	二圓
乙種二等運轉士	一圓
機關長	五圓
一等機關士	三圓
二等機關士	二圓
三等機關士	一圓

第七條 體格検査手数料ハ受験申請書ト俱ニ納ム學術試験手数料ハ學術試験開始ニ先チテ納

前項既納手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第二章 受験履歴

第八條 年齢二十年以上ニシテ左ニ掲クル履歴ノ一ヲ有シ臺灣汽船職員規則第六條ノ各項ニ該當セサル者ニアラサレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

甲種船長試験

- 一 甲種一等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 乙種船長ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

甲種一等運轉士試験

- 一 甲種二等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 甲種二等運轉士試験
 - 一 四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ其ノ内一年以上ハ横帆裝置ノ帆船又一年以上ハ汽船ニ乗組ミタルコト
 - 二 臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ其ノ内一年以上ハ横帆裝置ノ帆船又六月以上ハ汽船ニ乗組ミタルコト

乙種船長試験

- 一 乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 乙種一等運轉士試験
 - 一 四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト
 - 二 乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト
 - 三 乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
 - 四 臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト
- 乙種二等運轉士試験
 - 一 三年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト
 - 二 臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上二年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト
- 機關長試験
 - 一 一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上

- 上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
 - 一等機關士試驗
- 一 四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
- 二 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 三 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 四 二等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
- 五 臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場若クハ學校ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年六月以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
 - 二等機關士試驗
- 一 四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
- 二 三等機關士ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 三 臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年六月以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

三等機關士試驗

- 一 三年以上汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
 - 二 臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年以上汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト
- 第九條 甲種一等運轉士若クハ甲種二等運轉士ノ免狀ヲ以テ乙種一等運轉士ノ免狀ニ代用シ其職ヲ執リタル者ハ乙種船長試驗ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ執職期間ハ第八條ノ規定ニ依ルヘシ
- 甲種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ三等運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタル者又ハ一等機關士ノ免狀ヲ受有シ登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ其ノ職ヲ執リタルモノハ其ノ執職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歷ト見做スコトヲ得
- 第十條 前數條ニ於テ航洋船ト稱スルハ沿海航船以上ノ西洋形船舶航洋汽船ト稱スルハ沿海航船以上ノ汽船ヲ謂フ
- 第十一條 第八條中乙種船長試驗第一號及第二號ニ掲グル履歷ハ其ノ執職期間ヲ通算スルコトヲ得乙種一等機關士試驗第二號及第三號機關長試驗第一號及第二號一等機關士試驗第二號第三號及第四號ニ掲グル履歷ニ關シテモ亦同シ
- 第十二條 左ニ掲グルモノハ第八條第九條ニ規定シタル履歷トシテ效力ヲ有セス
- 一 繫留船ニ乗組ミタルモノ
 - 二 年齡滿十五年前ニ係ルモノ

第三章 試驗

第十三條 試驗ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受ケルコトヲ得ス但シ體格検査ニ合格シ學術試験ニ合格セサル者體格検査ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ於テ試験ヲ受ケントスルトキハ試験官吏ノ見込ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトアルヘシ學術試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス但シ乙種二等運轉士試験及三等機關士試験ニハ筆記試験ヲ行ハス

筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受ケルコトヲ得ス
體格検査ノ程度及學術試験ノ科目ハ別記ニ依リ之ヲ行フ

第十四條 筆記試験ニ於テ答ヲ爲スノ期間ハ試験官吏之ヲ定ム

口述試験ハ受験人一人毎ニ試問シテ即時答ヲ爲サシム

第十五條 試験官吏ニ於テ受験人ノ履歴若クハ身分ニ詐偽錯誤アルコト又ハ受験ノ資格ナキコトヲ發見スルトキ若クハ臺灣海軍局ノ定メタル受験人心得ニ違反シタルコトヲ認ムルトキハ何時

ニテモ其ノ試験ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 試験官吏ニ於テ受験人第十五條ノ處分ヲ受クヘキ所爲アリタルコトヲ試験終了後ニ發見スルトキハ其ノ試験ヲ無効トスヘシ

第十七條 受験人左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ試験ハ成立セサルモノトス

一 定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二 試験ヲ了ラヌシテ退場シタルトキ

三 第十四條ノ期間内ニ答ヲ爲ササルトキ

四 第十五條ノ處分ヲ受ケタルトキ

第十八條 受験人試験ニ合格シタルトキハ別記書式ノ合格證書ヲ付與ス

第十九條 合格證書ヲ付與シタル後試験官吏ニ於テ第十五條ノ處分ヲ受クヘキ所爲アリタルコトヲ發見スルトキハ該合格證書ヲ無効トスヘシ

第四章 試験停止

第二十條 體格検査ニ合格セサル者ハ受験ノ日ヨリ三箇月ヲ經過スルニアラサレハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十一條 同種免狀ニ對スル筆記試験ニ合格セサルコト若クハ筆記試験成立セサルコト三箇月間ニ於テ一回ニ及ヒタル者ハ最後受験ノ日ヨリ三箇月ヲ經過スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十二條 同種免狀ニ對スル口述試験ニ合格セサルコト若クハ口述試験成立セサルコト一回ニ及ヒタル者ハ最後受験ノ後三箇月間實地運航ニ從事シタル履歴ヲ有スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試験ヲ受ケルコトヲ得ス

前項ノ履歴ニ關シテハ第四條第八條及第十二條ノ規定ヲ適用ス

附則

第二十三條 此ノ規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行ス

第二十四條 此ノ規程施行ノ際現ニ汽船職員ノ職務ニ從事スル者ニ在テハ第四條ノ規定ニ依ラス單ニ當該船主ノ證明ヲ以テ足レリトス

(別記)

體格検査ノ程度

體格検査ニ於テ左ニ掲ケタル者ハ合格スルコトヲ得ス

- 一 四肢ノ一ヲ失ヒ若クハ其ノ用ヲ爲サ、ル者
- 二 老眼、近視眼若クハ一眼ヲ失ヒタル者
- 三 聾者、啞者
- 四 前各項ノ外當該醫官ニ於テ執務ニ不適當ト認ムル者

試験科目

甲種船長試験

(甲種一等運轉士試験及甲種二等運轉士試験ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 星象高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法
 - 二 太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法
 - 三 經度及太陽高度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
 - 四 「ナピール」自差表調製及用法
- 口述
- 一 羅針緯差ノ解明
 - 二 原基羅針据付及自差矯正ノ方法
 - 三 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

四 颶風ノ解明及避難法

五 船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

六 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種一等運轉士試験

(甲種二等運轉士試験ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 太陽方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
 - 二 子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法
 - 三 「サムナー」法ニ依リ船舶所在ノ位置及太陽ノ方位角ヲ知ル算法
 - 四 潮時ノ算法
- 口述
- 一 六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
 - 二 下橋建設其ノ他圓材ノ取扱
 - 三 錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法
 - 四 船舶荒天運用ノ方法
 - 五 航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
 - 六 汽船ノ暗車作用
 - 七 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 甲種二等運轉士試験

筆記

- 一 航海運用ニ關スル用語ノ解明
 - 二 航海日誌ノ記載
 - 三 分數及比例算法
 - 四 航海日誌ノ算法
 - 五 緯線航行算法
 - 六 「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ依リ經緯度若クハ針路航程ヲ知ル算法
 - 七 太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法
 - 八 太陽出沒方位ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
 - 九 時辰儀及太陽高度ニ依リ經度ヲ知ル算法
 - 十 羅針自差ノ算法
 - 十一 海圖ノ應用
- 口 述
- 一 船具ノ取付及取脱
 - 二 桅檣及帆架ノ揚降
 - 三 帆ノ取扱
 - 四 船舶常時運轉及碇泊ノ方法
 - 五 測程具及測深具ノ解明並用法
 - 六 貨物積載法

七 海上衝突豫防法

八 萬國信號法

九 羅針自差ノ測定方法

十 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種船長試験

(乙種一等運轉士試験及乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法
 - 二 太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
 - 三 時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 口 述
- 一 六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
 - 二 羅針違差ノ解明
 - 三 汽船ノ暗車作用
 - 四 汽船荒天運用ノ方法
 - 五 錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法
 - 六 航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
 - 七 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
 - 八 船舶及船員ニ關スル法規ノ要領
 - 九 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種一等運轉士試驗

(乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 航海日誌ノ記載
 - 二 加減乗除應用算法
 - 三 航海日誌ノ算法
 - 四 羅針自差ノ算法
 - 五 海圖ノ應用
- 口述
- 一 帆ノ取扱
 - 二 海上衝突豫防法
 - 三 萬國信號法
 - 四 羅針ノ自差ノ測定方法
 - 五 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 乙種二等運轉士試驗
- 口述
- 一 羅針儀ノ解明及用法
 - 二 測程具測深具ノ解明及用法
 - 三 汽船運轉及碇泊ノ方法
 - 四 船舶衝突豫防ノ方法

五 船舶信號法ノ大要

六 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

機關長試驗

(二等機關士試驗、二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 汽機強力汽罐強力螺旋螺距煙突溫度、蒸氣膨脹、蒸氣切斷、水壓力、開平式汽力圖等ニ關スル算法
 - 二 汽機汽罐局部ノ製圖
- 口述
- 一 熱及汽機汽罐ニ於ケル熱ノ效力及害
 - 二 汽機汽罐各部ニ要スル諸強力ノ解明
 - 三 汽機汽罐材料ノ解明
 - 四 汽機各部ノ摩擦力及實馬力ト推進力トノ關係
 - 五 蒸氣及其ノ膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要
 - 六 汽力器及汽力圖ノ解明
 - 七 汽機汽罐ノ要部及炭量水量等ノ割合
 - 八 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 一等機關士試驗
- (二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ)

筆記

- 一 重量炭費、觸火面、速力、槓杆安全辨、唧筒馬力等ニ關スル算法
 - 口述
 - 一 汽機汽罐各部組成ノ理解
 - 二 各種ノ汽機汽罐構造及利害ノ解明
 - 三 汽機各部ノ働力方向ノ解明
 - 四 各種ノ滑機、働機及推進器ノ解明
 - 五 車軸、螺旋軸、滑機等ノ裝置及其ノ位置ノ改正
 - 六 馬力ノ解明
 - 七 汽機汽罐ニ屬スル諸器製造ノ理解
 - 八 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 二等機關士試驗
(二等機關士試驗ノ科目ヲ併セ)
- 筆記
- 一 機關室日誌ノ記載
 - 二 分數比例及面體求積ノ算法
 - 口述
 - 一 汽機汽罐組成ノ大要
 - 二 汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意
 - 三 汽罐ニ腐蝕燒損其ノ他毀損ヲ來スノ原因及其ノ豫防方法
 - 四 運轉中汽機汽罐ニ要スル注意

- 五 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
 - 二等機關士試驗
 - 口述
 - 一 汽機汽罐檢査ノ方法
 - 二 汽機汽罐各部ノ效用
 - 三 汽機汽罐ニ屬スル諸器ノ效用及用法
 - 四 汽機汽罐ノ取扱及運轉方法
 - 五 汽機汽罐ノ損所ヲ修繕スル方法
 - 六 運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
 - 七 前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 合格證書書式(陸七寸七分横一尺八寸)

合格證書

族籍

氏名

生年月日

右者臺灣汽船職員試驗規程ニ依リ(試驗種類)ヲ受ケ合格ス依テ此ノ證書ヲ付與ス

明治 年 月 日

臺灣海事局長氏名印

○臺灣總督府令第五十九號 (官報十月九日)

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ニ左ノ一號ヲ追加ス

明治三十四年九月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

一 臺灣汽船職員試驗手数料

○臺灣總督府令第六十號 (官報十月九日)

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ニ左ノ一號ヲ追加ス

明治三十四年九月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

一 土地臺帳謄本手数料

○臺灣總督府令第六十一號 (官報十月十六日)

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通相定ム

明治三十四年十月三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依ル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱ニ關スル

規程ハ此ノ規程ニ定ムルモノヲ除ク外臺灣總督ノ管掌ニ屬スルモノハ明治三十四年閣令第一號

ノ規程知事廳長ノ主管ニ屬スルモノハ同年七月內務省令第二十二號ノ規程ニ依ル

第二條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ死亡者最終ニ在職シタル

本屬廳ノ長官ニ請求スヘシ

第三條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メ若クハ其ノ證書ヲ亡失シ其ノ他異動ヲ生シタル

トキハ前條官廳ニ届出ツヘシ

第四條 明治三十四年閣令第一號第十條第十一條及同年七月內務省令第二十二號第八條第九條ニ

依ル事實ノ證明ハ本島ニ在住スル者ニ在テハ辨務署長ノ證明アルヲ要ス

第五條 臺灣總督府ニ於テ退隱料扶助料又ハ一時金ノ支給ヲ許可シ證書ヲ下付スルトキハ其ノ請

求ヲ爲シタル官廳ヲ經由スヘシ

第六條 明治三十四年閣令第一號中內閣恩給局長ニ屬スル事項ハ臺灣總督內閣恩給局ニ屬スル事

項ハ臺灣總督府之ヲ行フ

第七條 明治三十四年七月內務省令第二十二號中廳府縣長官ニ屬スル事項ハ知事廳長之ヲ行フ

附則

第八條 此ノ規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○臺灣總督府令第六十二號 (官報十月十六日)

明治三十三年九月府令第八十八號中別使配達料ノ下ニ「及特種別使配達料」ヲ加フ

明治三十四年十月五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

臺灣總督府令第八十八號(明治三十三年十月十二日官報)抄録
臺灣島内ニ於テ配達スヘキ電報ノ別使配達料ハ明治三十三年逓信省令第四十六號電報規則第六十七條ニ規定セル金額ノ五
倍トス

○臺灣總督府令第六十三號(官報十一月七日)
官幣大社臺灣神社ニ守衛(雇)四名ヲ置キ神社境內警備ノ事ヲ掌ラシム

明治三十四年十月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十四號(官報十一月十六日)
明治三十四年六月府令第三十二號臺灣總督府專賣支局ノ名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス
本令ハ明治三十四年十一月十一日ヨリ施行ス

明治三十四年十月三十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

名	稱	位	置	管	轄	區域
臺灣總督府專賣局苗栗支局		臺中縣	苗栗	臺中縣苗栗辨務署管內		
臺灣總督府專賣局臺中支局		臺中縣	臺中	臺中縣臺中、彰化、北斗、南投、斗六、北港辨務署管內及臺南縣管內		
臺灣總督府專賣局神戶支局		兵庫縣	神戶			

○臺灣總督府令第六十五號(官報十一月十六日)
明治三十一年律令第十三號臺灣地籍規則ヲ明治三十四年十一月四日ヨリ臺北縣與直堡ニ施行ス

明治三十四年十一月二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十六號(官報十一月二十六日)
廳位置及管轄區域左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十年六月府令第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

廳名稱位置及管轄區域

明治三十四年十一月 臺灣總督府令 第六十三號 第六十四號 第六十五號 第六十六號

廳名	位置	管轄區域
臺北廳	大加蚋堡、芝蘭一堡、芝蘭二堡、龍橋堡、寶直堡、芝蘭三堡、八里坌堡、一國	基隆堡、金包里堡、三貂堡、石碇堡、一國、文山堡、內港尾寮庄、大坪庄、樹潭庄
基隆廳	基隆、基隆、基隆	基隆、基隆、基隆
宜蘭廳	宜蘭、宜蘭、宜蘭	宜蘭、宜蘭、宜蘭
花蓮廳	花蓮、花蓮、花蓮	花蓮、花蓮、花蓮
台東廳	台東、台東、台東	台東、台東、台東
新竹廳	新竹一堡、新竹城內	新竹一堡、新竹城內
苗栗廳	苗栗、苗栗、苗栗	苗栗、苗栗、苗栗
台中廳	台中、台中、台中	台中、台中、台中
彰化廳	彰化、彰化、彰化	彰化、彰化、彰化
南投廳	南投、南投、南投	南投、南投、南投
雲林廳	雲林、雲林、雲林	雲林、雲林、雲林
嘉義廳	嘉義、嘉義、嘉義	嘉義、嘉義、嘉義
台南廳	台南、台南、台南	台南、台南、台南
高雄廳	高雄、高雄、高雄	高雄、高雄、高雄

廳名	位置	管轄區域
新竹廳	新竹一堡、新竹城內	新竹一堡、新竹城內
苗栗廳	苗栗、苗栗、苗栗	苗栗、苗栗、苗栗
台中廳	台中、台中、台中	台中、台中、台中
彰化廳	彰化、彰化、彰化	彰化、彰化、彰化
南投廳	南投、南投、南投	南投、南投、南投
雲林廳	雲林、雲林、雲林	雲林、雲林、雲林
嘉義廳	嘉義、嘉義、嘉義	嘉義、嘉義、嘉義
台南廳	台南、台南、台南	台南、台南、台南
高雄廳	高雄、高雄、高雄	高雄、高雄、高雄
屏東廳	屏東、屏東、屏東	屏東、屏東、屏東
花蓮廳	花蓮、花蓮、花蓮	花蓮、花蓮、花蓮
台東廳	台東、台東、台東	台東、台東、台東
基隆廳	基隆、基隆、基隆	基隆、基隆、基隆
宜蘭廳	宜蘭、宜蘭、宜蘭	宜蘭、宜蘭、宜蘭
花蓮廳	花蓮、花蓮、花蓮	花蓮、花蓮、花蓮
台東廳	台東、台東、台東	台東、台東、台東
新竹廳	新竹、新竹、新竹	新竹、新竹、新竹
苗栗廳	苗栗、苗栗、苗栗	苗栗、苗栗、苗栗
台中廳	台中、台中、台中	台中、台中、台中
彰化廳	彰化、彰化、彰化	彰化、彰化、彰化
南投廳	南投、南投、南投	南投、南投、南投
雲林廳	雲林、雲林、雲林	雲林、雲林、雲林
嘉義廳	嘉義、嘉義、嘉義	嘉義、嘉義、嘉義
台南廳	台南、台南、台南	台南、台南、台南
高雄廳	高雄、高雄、高雄	高雄、高雄、高雄
屏東廳	屏東、屏東、屏東	屏東、屏東、屏東
花蓮廳	花蓮、花蓮、花蓮	花蓮、花蓮、花蓮
台東廳	台東、台東、台東	台東、台東、台東
基隆廳	基隆、基隆、基隆	基隆、基隆、基隆
宜蘭廳	宜蘭、宜蘭、宜蘭	宜蘭、宜蘭、宜蘭
花蓮廳	花蓮、花蓮、花蓮	花蓮、花蓮、花蓮
台東廳	台東、台東、台東	台東、台東、台東

明治三十四年十一月 臺灣總督府令 第六十六號

恒春	宜化里恒春市街	宜化里、德化里、至厚里、安定里、長樂里、治平里、泰盛里、成昌里、永增里、仁壽里、成文里、善社里、永木里一團
臺東	南鄉、卑南	南鄉、鹿寮鄉、新鄉、蓮鄉一團
澎湖	東西灣媽宮城內	西嶼灣、通梁灣、瓦刺灣、赤崁灣、鎮海灣、吉貝灣、蘇澳灣、水塔灣、東西灣、崙里灣、南寮灣、林板灣一團

〔參照〕

明治三十年五月二十日臺灣總督府令第二十號八縣廳位置及管轄區域ナリ

○臺灣總督府令第六十七號(官報十一月二十六日)

明治三十一年七月府令第五十六號地方法院及出張所名稱位置管轄區域左ノ通改正ス但シ管轄區域ノ變更ニ依リ他ノ管轄ニ屬シタル訴訟事件ト雖本令施行以前之ヲ受理シ未タ判決ヲ經サルモノハ仍其ノ法院又ハ出張所ニ於テ之ヲ管轄ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

名	稱	位置	管轄區域
臺北	地方法院	臺北	臺北廳基隆廳、宜蘭廳、深坑廳、桃竹同廳、新竹廳、苗栗廳、各管下一團
臺北	地方法院	新竹	臺北地方法院管轄ノ内新竹廳、苗栗廳、各管下一團
臺北	地方法院	宜蘭	臺北地方法院管轄ノ内宜蘭廳管下一團
臺中	地方法院	彰化	臺中廳、彰化廳、南投廳、各管下一團
臺南	地方法院	臺南	斗六廳、嘉義廳、鹽水港廳、臺南廳、番港廳、鳳山廳、阿猴廳、恒春廳、臺東廳、澎湖廳、各管下一團

臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域

臺南	地方法院	嘉義	臺南地方法院管轄ノ内斗六廳、嘉義廳、鹽水港廳、各管下一團
臺南	地方法院	鳳山	臺南地方法院管轄ノ内鳳山廳、阿猴廳、恒春廳、臺東廳、各管下一團
臺南	地方法院	澎湖	臺南地方法院管轄ノ内澎湖廳管下一團

○臺灣總督府令第六十八號(官報十一月二十六日)

明治三十一年律令第十七號臺灣地方稅規則ヲ臺北廳、基隆廳、深坑廳、桃竹同廳、新竹廳、苗栗廳、臺中廳、彰化廳、斗六廳、南投廳、嘉義廳、鹽水港廳、臺南廳、番港廳、鳳山廳、阿猴廳ニ施行ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十九號(官報十一月二十六日)

明治三十年三月府令第九號契稅規則施行細則書式中縣知事(島司)ヲ「廳長」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十號(官報十一月二十六日)

明治三十年六月府令第三十號街庄社長設置規程中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條中縣知事廳長之ヲ定ムヲ「臺灣總督」ノ認可ヲ得テ廳長之ヲ定ムニ改ム
第二條中「辨務署長」ノ具狀ニ依リ縣知事ヲ削ル
第四條中知事廳長ヲ「臺灣總督」ニ改ム

○臺灣總督府令第七十一號 (官報 十一月二十六日)

明治三十年七月府令第三十一號中辨務署長ヲ廳長ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十二號 (官報 十一月二十六日)

明治三十年十月府令第六十號中辨務署長ヲ廳長ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十三號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年一月府令第三號私立公學校設置廢止規則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條第三條中辨務署長ヲ經テ縣知事廳長ヲ廳長ヲ經テ臺灣總督ニ改ム

第四條ヲ削ル

○臺灣總督府令第七十四號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年六月府令第三十五號臺灣船籍規則施行細則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ヲ取得シタルモノハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ

第二號書式ノ件名書ヲ作り其ノ船籍ノ編入ヲ地方官廳(地方官廳ト稱スルハ本船籍港ヲ)ニ申

請スヘシ

第二條 地方官廳ニ於テハ豫メ船籍臺帳ヲ備ヘ置キ船舶積量測度規則ニ從ヒ船舶ノ積量ヲ測度シ

第三號第四號若クハ第五號書式ノ測度表ヲ調製シ前條ノ件名書ト照合シ(若シ相違ノ處アル)其

ノ各事項ヲ船籍臺帳ニ登録シ且件名書ニ編入濟ノ證明ヲ與ヘ之ヲ申請人ニ返付スヘシ

第三條ヲ削ル

第四條中辨務署長ノ與書ヲ受ケヲ削ル

第五條第一項第二項中辨務署ヲシテヲ削リ「交付セシムヘシ」ヲ「交付スヘシ」ニ改ム

第九條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ニ接シタルトキハ他ノ官廳ヨリ送付シタル假船籍證書若クハ

假船籍札ノ原本件名書及測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ更ニ測度ヲ要セス船舶國籍證

書ノ交付ニ係ルトキハ其ノ申請書及件名書ニ測度表ヲ添ヘ臺灣總督府ニ進達シ臺灣總督府ハ第

五條第一項ニ依リ船籍證書ヲ作り船籍札ノ交付ニ係ルトキハ地方官廳ニ於テ第五條第二項ニ依

リ船籍札ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十條第十四條第二十五條第二十六條中辨務署ヲ「地方官廳」ニ改ム

第十八條中辨務署ヲ「地方官廳」ニ改メ且申請書ニ該署長ノ與書ヲ受ケヲ削ル

第十九條中申請書ニ辨務署長ノ與書ヲ受ケヲ「申請書ヲ地方官廳ニ差出シ」ニ改ム

第二十一條中「其ノ申請書ニ辨務署長ノ與書ヲ受ケ」ヲ削ル

○臺灣總督府令第七十五號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年八月府令第七十八號臺灣公學校規則中第二十四條ヲ削ル

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十六號(官報十一月二十六日)

明治三十一年八月府令第七十九號臺灣公學校設置廢止規則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條第三條中「辨務署長ヲ經テ知事ヲ削ル

第四條ヲ削ル

○臺灣總督府令第七十七號(官報十一月二十六日)

明治三十一年十月府令第一百號中辨務署ヲ「廳」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十八號(官報十一月二十六日)

明治三十一年十一月府令第一百四號書房義塾ニ關スル規程中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第五條中「辨務署長ヲ經テ知事ヲ削ル

第六條第七條中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

第九條ヲ削ル

○臺灣總督府令第七十九號(官報十一月二十六日)

明治三十二年四月府令第二十九號土地申告事項異動届出規則第八條中辨務署ヲ「廳」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十號(官報十一月二十六日)

明治三十二年四月府令第三十號中地方長官ヲ「師範學校長」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十一號(官報十一月二十六日)

明治三十二年四月府令第三十一號臺灣總督府師範學校規則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條但書ヲ削ル

第十九條中知事廳長ヲ「臺灣總督」ニ改ム

第四十條ヲ削ル

○臺灣總督府令第八十二號(官報十一月二十六日)

明治三十二年五月府令第三十六號臺灣獸疫豫防規則施行細則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條辨務署長ヲ「地方長官」ニ改ム

第二條第一項ヲ左ノ通改ム

地方長官前條ノ公示ヲ爲スト同時ニ臺灣總督及鄰接地方長官並航路ノ關係アル地方長官ニ報告スヘシ

○臺灣總督府令第八十三號(官報十一月二十六日)

明治三十二年八月府令第九十五號臺灣窮民救助規則第三條中地方長官ニ於テ之ヲ定メ臺灣總督ノ認

可ヲ受クヘシヲ「臺灣總督之ヲ定ム」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十四號 (官報 十二月二十六日)

明治三十二年八月府令第九十九號中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年十一月十一日

○臺灣總督府令第八十五號 (官報 十二月二十六日)

明治三十二年八月府令第百號中左ノ通告正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

地方長官ヲ「臺灣總督」辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム
第五條ヲ削除ス

○臺灣總督府令第八十六號 (官報 十二月二十六日)

明治三十二年八月府令第百一號中左ノ通告正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護若クハ取扱ヲ爲シタル場合ニ於テ地方長官ハ直ニ臺灣總督ニ報告シ及帝國ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者又ハ親族若クハ相續人分明ナルトキハ其ノ所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及其ノ同伴者ニ關シテハ扶養義務者又ハ親族ニ之ヲ通知シ行旅死亡人及其ノ同伴者ニ關シテハ相續人又ハ

扶養義務者若クハ親族ニ之ヲ通知スヘシ其ノ被救助者ニ付テハ併テ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ
外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ニシテ國籍分明ナルトキ地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外之ヲ其ノ所屬國領事ニ通知スヘシ

第二條 外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護又ハ取扱ニ關スル費用ニシテ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキ又ハ遺留ノ金錢若クハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサル場合ニ於テハ帝國ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者若クハ相續人分明ナルトキハ其ノ所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及同伴者ニ關シテハ扶養義務者ニ對シ行旅死亡人ニ關シテハ相續人若クハ死亡人ノ扶養義務者ニ對シ其ノ辨償ヲ請求スヘシ

前項費用ノ辨償金徵收ニ付テハ地方稅徵收ニ關スル例ニ依ル
前項ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキハ地方長官ハ臺灣總督府ニ納入スヘシ

○臺灣總督府令第八十七號 (官報 十二月二十六日)

明治三十二年二月府令第十八號廢止ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十三年三月三號臺灣總督府令第十八號ハ公學校小學校及書房建設ノ改良ヲシテ學術ヲ補修セシムル必要アル場合ニ於テハ師範學校ニ講習科ヲ附設シ得ルノ件ナリ

○臺灣總督府令第八十八號 (官報 十二月二十六日)

明治三十二年十二月府令第百三十二號臺灣監獄則施行細則中辨務署ヲ「廳」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十九號(官報十一月二十六日)

明治三十三年三月府令第二十六號食鹽請買規則中辨務署ヲ「廳」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第九十號(官報十一月二十六日)

明治三十三年三月府令第二十七號臺灣水難救護規則施行細則中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第九十一號(官報十一月二十六日)

明治三十四年一月府令第一號臺灣度量衡條例施行規則中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第五十七條 臺灣度量衡條例第十二條ニ依リ臨檢ヲ行フ場合ニ於テハ警察官ニアラサル官吏ヲ派

遣スルトキハ左ノ證據ヲ携帶セシム

臺灣總督府度量衡司檢所ヲ「臺灣總督府民政部殖產局」ニ改ム

○臺灣總督府令第九十二號(官報十一月二十六日)

明治三十四年二月府令第五號臺灣囚人及刑事被告人押送規則中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第九十三號(官報十一月二十六日)

明治三十四年三月府令第八號臺灣地方稅賦課及徵收規則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第六條中「縣」ニアリテハ「辨務署長」應ニアリテハ「ヲ」削ル

第八條中辨務支署長若クハ出張所長ヲ「支廳長」ニ改ム

第十四條中第二項ヲ削ル

別記書式中何辨務署長、辨務署長、署長ヲ「廳長」、辨務署ヲ「廳當署」ヲ「當廳」ニ改ム

○臺灣總督府令第九十四號(官報十一月二十六日)

明治三十四年三月府令第十七號臺灣地租規則施行細則第十二條中辨務署ヲ「廳」ニ改ム
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第九十五號(官報十一月二十六日)

明治三十四年六月府令第三十八號軍役志願者規則中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十條中「地方長官」ヲ經テ「ヲ」削ル

第十六條中當該隊長ノ下ヲ「地方長官」ニ送付スヘシニ改ム

第二十三條中「縣廳」ヲ「地方廳」ニ改ム「關係各辨務署長若クハ兵事主任官吏一名」ヲ削ル

第二十五條中辨務署員ヲ「地方廳員」ニ改ム

辨務署長ヲ「地方長官」ニ改ム

書式中「廳」ニ改ム

○臺灣總督府令第九十六號(官報十一月二十六日)

明治三十四年十一月 臺灣總督府令 第九十四號 第九十五號 第九十六號

明治三十四年七月府令第四十三號 臺灣土地收用規則施行規則中辨務署長ヲ「地方長官」ニ改ム
臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十四年十一月十一日

○臺灣總督府令第九十七號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年七月府令第四十六號 臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第六條中第二項ヲ左ノ如ク改ム

廳長ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ查數ノ上意見ヲ具シテ臺灣總督ニ差出スヘシ

第六條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

臺灣總督ニ於テ第一項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り廳長ヲシテ本人ニ交付セシム

第二條第二號第八條第十八條中辨務署長ヲ「廳長」ニ第十八條中地方長官ヲ「臺灣總督」ニ第二十一條

中辨務署長又ハ市町村長ヲ「廳長」ニ第一條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十二

條第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條中地方長官ヲ「廳長」ニ改ム

第七條中辨務署長ノ證明ヲ經テ第二十二條中「第十八條」第二十二條第一項及第二十三條中「居住地ノ

辨務署長又ハ市町村長ヲ經テヲ削ル

○臺灣總督府令第九十八號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年七月府令第四十八號 臺灣公共埤圳規則施行規則中左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十五條中過怠金ノ下ヲ「ノ處分ハ廳長之ヲ行ヒ剝職ハ臺灣總督之ヲ行フ」ニ改ム

第十六條中「又ハ辨務署長」ヲ削ル

第十七條中知事ヲ「臺灣總督」ニ改ム

知事及辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

○臺灣總督府令第九十九號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年九月府令第五十六號 砂糖消費稅法施行細則中辨務署ヲ「廳」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第一百號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年九月府令第五十八號 臺灣汽船職員試驗規程中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第一百一號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年十月府令第六十一號 中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第一百二號 (官報 十一月二十六日)

臺灣總督府民政部殖產局出張所ヲ臺南ニ置キ糖業改良ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

明治三十四年十一月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第三百三號 (官報 十二月七日)

臺灣總督ノ發スル命令ハ臺灣日日新報附錄府報ニ掲載スルヲ以テ公布式ト定ム

本令ハ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十三年九月府令第七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十四年十一月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十三年九月二十日臺灣總督府令第七十號ハ臺灣總督ノ發スル命令ハ府報ニ掲載スルヲ以テ公布式ト爲スノ件ナリ

○臺灣總督府令第四百四號 (官報 十二月七日)

明治三十年三月府令第八號臺灣中央衛生會規則中左ノ通改正ス

明治三十四年十一月二十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第四條 臺灣中央衛生會ハ會長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ臺灣總督府局長、事務官、參事官、技師六人、臺灣總督府民政部警察本署長、臺灣陸軍軍醫部長、臺北廳長、臺北醫院長及醫師、藥學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ

委員中臺灣總督府局長、事務官、參事官、技師、醫師、藥學家ハ臺灣總督之ヲ命ス

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺灣中央衛生會規則(明治三十年三月三十日官報)抄録

第四條 臺灣中央衛生會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ臺灣總督府民政局長ヲ以テ之ニ充ツ

明治三十四年十二月 臺灣總督府令 第四百三號 第四百四號

委員ハ臺灣總督府事務官參事官技師十二人陸海軍軍醫臺北縣書記官各一人臺北縣警部長及醫師醫學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ

○臺灣總督府令第五百五號(官報 十二月十一日)

明治三十二年五月府令第三十六號臺灣獸疫豫防規則施行細則第二十三條中每週ヲ「每月三回」(十日、二十日、三十日)ニ改ム

本令ハ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

(參照)

臺灣總督府令第三十六號臺灣獸疫豫防規則施行細則(明治三十二年五月十六日官報)抄録

第二十三條 地方長官ハ獸疫發生中其狀況ヲ調査シ每週別記様式ニ依リ臺灣總督ニ報告ス(シ)

○臺灣總督府令第五百六號(官報 十二月十一日)

明治三十三年四月府令第三十七號臺灣電話交換規則中左ノ通改正ス

明治三十四年十一月二十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十一條中「加入期間ハノ下ニ官廳用ニ供スルモノノ外」ヲ加フ

第十五條第六條但書ニ依リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

既ニ設置セルモノハ官廳公署及公共事業ノ用ニ供スル場合ノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス讓受人讓渡ノ場合亦同シ

第四十條中第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

加入申込者第二十條第二項ノ電話線接續料納付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納付

セサルトキハ其ノ加入申込ヲ取消スヘシ

(參照)

臺灣總督府令第三十七號臺灣電話交換規則(明治三十三年四月二十四日官報)抄録

第六條 電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順序ニ依ル但官廳公署及公共事業ノ用ニ供スルモノハ其順序ニ依ラサルコトアルヘシ

第十一條 加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一箇年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス

前項ノ加入期間以後ハ每三箇月ヲ以テ加入期間トス

第十五條 第六條但書ニ依リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ヲ他人ニ讓渡ストキハ其許可ヲ取消スヘシ但其既ニ設置セルモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

○臺灣總督府令第五百七號(官報 十二月二十一日)

明治三十一年七月府令第四十九號臺灣總督府警察官及司獄官練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十四年十二月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條第一項ニ左ノ但シ書ヲ加フ

但シ交代ノ際五十名ヲ限リ臨時定員ヲ増加スルコトヲ得

(參照)

臺灣總督府令第四十九號臺灣總督府警察官及司獄官練習所規則(明治三十一年七月二十三日官報)抄録

第二條 本所ノ練習生ハ採用試驗ニ合格シタル警察官吏司獄官吏及其現官現職ニアラサル者ノ二種ヨリ成ル又練習生ノ定員ハ二種相合シテ二百五十名トス

○臺灣總督府令第五百八號(官報 明治三十五年一月四日)

臺灣公學校教員檢定及免許狀規則左ノ通相定ム

明治三十四年十二月十二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣公學校教員檢定及免許狀規則

- 第一條 臺灣總督府ニ臺灣公學校教員檢定委員ヲ置ク
- 第二條 檢定ヲ教諭檢定訓導檢定ノ二トス
教諭檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ之ヲ行フ
 - 一 臺灣總督府國語學校師範部卒業生或同校講習科ヲ修了シタル者
 - 二 尋常小學校本科正教員以上ノ免許狀ヲ有シ且臺灣土語ヲ習得シタル經歷アル者
 - 三 滿五箇年以上臺灣公學校訓導ノ職ニ從事シ品行優良學術教授超衆ト認め特ニ廳長ニ於テ具申シタル者
 - 四 其ノ他學力經歷等特ニ適任ト認めタル者
- 訓導檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ之ヲ行フ
 - 一 臺灣總督府師範學校卒業生
 - 二 其ノ他廳長ニ於テ適任ト認め特ニ具申シタル者
- 第三條 前條檢定ニ就キ委員ニ於テ教育及臺灣土語ニ關シ必要ト認めタルトキハ試驗ヲ行フコトヲ得
前條ノ外試驗檢定ヲ行フコトアルヘシ
試驗ノ科目及程度ハ教諭ニ在リテハ臺灣總督府國語學校師範部訓導ニ在リテハ臺灣總督府師範學校ノ科目及程度ニ準據ス
- 第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ別記書式第一號乃至第三號ノ書面ニ戶籍吏ノ作リタル戶籍抄本若クハ廳長ノ證明シタル戶籍關書ヲ添ヘ廳長ヲ經テ臺灣總督ニ願出スヘシ

廳長ハ前項ニ依リ願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ付シ臺灣總督ニ具申スヘシ

臺灣總督府國語學校若クハ師範學校ヲ卒業シ又ハ國語學校講習科ヲ修了シタル際ニ於ケル者ノ檢定ハ第一項ノ手續ヲ要セス當該學校長ノ具申ニ依リ之ヲ行フ

第五條 檢定ニ合格シタル者ニハ別記書式第四號ノ免許狀ヲ授與スヘシ

第六條 免許狀ヲ授與シタルトキハ其ノ都度之ヲ公學校教員候補者名簿ニ登錄シ且ハノ旨ヲ公示ス

第七條 免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ替換若クハ再渡ヲ臺灣總督ニ出願スルコトヲ得

第八條 免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 二 信用若クハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
 - 三 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認めタルトキハ臺灣總督ニ於テ免許狀ヲ褫奪ス

附則

第九條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十條 明治三十一年十二月十二府令第三百一十一號明治三十二年十二月十二府令第三百二十七號ハ此ノ規則施行ノ

日ヨリ廢止ス

第十一條 此ノ規則發布前ニ授與シタル免許狀ハ其ノ有効期間仍其ノ效力ヲ有ス

(別記書式)

第一號(用紙美濃紙)

公學校教員(無)試驗檢定願

教諭(訓導)

右願書ノ教員志願ニ付御檢定相成度別紙履歷書身體檢査書相添此段相願候也

年月日

臺灣總督宛

第二號(用紙美濃紙)

履歷書

本籍地族裔住所

氏

生年月

住所族裔

氏

生年月

右

氏

名印

- 學業
 - 一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業(卒業證書寫別紙ノ通)
 - 一年月日何ヨリ何年月日マテ何處ニ於テ何科講習其證明書ヲ受テ(證明狀寫別紙ノ通)
 - 一年月日何々科之種檢定ヲ受ケ何々科合格(免許狀寫別紙ノ通)
- 業務
 - 一年月日何府縣何郡市町村何々小學校准訓導ヲ命ス何級何俸(何圖)給與
 - 一年月日何府縣何郡市町村何小學校訓導何級何俸(何圖)給與
 - 一依願退職(休職)ヲ命ス(願出ノ事由ヲ記スヘシ)

一年月日何々ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ右ノ通相違無之候也

年月日

第三號(用紙美濃紙)

身體檢査書

住所族裔

氏

生年月

右

氏

名印

- 一呼吸器、喉頭、氣管支、肺臟及肋膜ノ健否
 - 一神經系、腦及末梢神經ノ健否
 - 一皮膚、瘡患ニ因スル斑點結節ノ存否
 - 一視官、視力ノ健否
 - 一聽官、聽力ノ健否
 - 一言語、明晰ナリヤ否
- (右ノ外現存セル疾患及變形ハ總テ之ヲ記載スルヲ要ス)
右檢査候處相違無之候也

年月日

第四號

公學校教員免許狀

住所

醫師

氏

名印

族裔

氏

生年月

右ハ臺灣公學校教諭(訓導)タルコトヲ免許ス

年 月 日

臺灣總督位勳爵

氏

名印

第何號

(參照)

明治三十一年十月七日臺灣總督府令第九十一號ハ臺灣公學校敷設檢定期則同三十二年十月二日同第九十七號ハ臺灣公學校訓導檢定期則ナリ

○臺灣總督府令第九十九號 (官報 明治三十五年一月四日)

學租財產ハ臺灣總督府民政長官之ヲ管理シ其ノ學租ハ廳長之ヲ徵收ス
學租財產ヨリ生スル收入ハ學事並學租ニ關スル諸費ニ充ツ

明治三十四年十二月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第一百十號 (官報 明治三十五年一月四日)

臺中ニ臨時臺灣土地調查局臺中出張所ヲ置キ苗栗臺中彰化南投斗六各廳管内ニ於ケル土地調査ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

明治三十四年十二月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第一百一十一號 (官報 明治三十五年一月十六日)

明治三十一年七月府令第五十號臺灣沿海通航船取締規則左ノ通改正ス

明治三十四年十二月二十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣沿海通航船取締規則

第一條 沿海通航船臺灣沿岸ヲ往復スルトキハ出入港ノ都度稅關稅關支署稅關監視署共之ナキ所ニ於テハ警察官署ニ出入港届ヲ爲シ積荷目録ヲ添付スヘシ

第二條 積荷目録ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 船名並船籍國籍證書又ハ船鑑札ノ番號

二 船籍港

三 船積量

四 船長ノ住所氏名

五 船員船客ノ氏名

六 積荷ノ種類、數量、價額及其仕向地並仕出地

七 發港地、寄港地、終港地

八 入出港ノ年月日

第三條 沿海通航船ノ發港地ニ於テ出港届ヲ受ケタル官署ハ出港認許證ヲ交付ス可シ出港認許證

ニハ積荷目録ノ事項ヲ附記スヘシ

第四條 沿海通航船ノ寄港地ニ於ケル官署ハ出港認許證ノ記載事項ニ異動ノ有無ヲ調査シ異動アルトキハ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ交付スヘシ

第五條 沿海通航船ノ入港届ニハ出港認許證ヲ添付スヘシ

第六條 沿海通航船ノ終港地ニ於テ入港届ヲ受ケタル官署ハ出港認許證ニ照シテ船客及積載貨物ヲ調査スヘシ

第七條 出入港届ヲ爲サス又ハ出港認許證ヲ提出セサルトキハ船長ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 此ノ規則中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代テ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ亦之ヲ適用ス

法令全書

訓令

○内務省訓令第一號
臨時「ベスト」豫防事務局職員ニシテ其資格ヲ以テ旅行スルトキハ三十年勅令第三百二十三號内國旅費規則ニ依リ官吏ハ各其本官相當ノ旅費ヲ官吏ニ非サル顧問ハ二等旅費檢疫醫書記監吏ハ四等旅費ヲ支給スヘシ
但本令ハ三十四年一月ヨリ施行ス

明治三十四年一月二十三日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

北海道廳 府縣

○内務省訓令第二號

明治三十四年七月二十四日抄録

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲グルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後内務報告例ニ依リ報告スヘシ
三 直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ並從前既ニ許シタルモノノ繼續使用及使用者ノ變更ヲ許ス事
十一 明治二十三年中營省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町步以下ヲ埋立ツル事並埋立許可ノ後其著手期限ノ變更ヲ許可スル事及埋立成功シタル土地ヲ處分スル事
第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ營省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ殆ツ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

明治三十四年一月二十六日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

〔參照〕

内務省訓令第十四號(明治三十四年七月二十四日抄録)

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲グルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後内務報告例ニ依リ報告スヘシ

三 直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徴シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ並從前既ニ許シタルモノノ繼續使用及使用者ノ變更ヲ許ス事

十一 明治二十三年中營省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町步以下ヲ埋立ツル事並埋立許可ノ後其著手期限ノ變更ヲ許可スル事及埋立成功シタル土地ヲ處分スル事

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ營省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ殆ツ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

○大藏省訓令第一號

警視廳 北海道廳 府 縣 總務局 造幣局 印刷局 專賣局
稅關 稅務管理局 臨時沖繩縣土地整理事務局 臨時稅關工部局

明治三十三年三月當省訓令第二號明治三十三年度當省所管歲入科目表歲入經常部第三款官業及官有財產收入第四項官有物貸下料ノ項中第四目物品貸下料ノ目ヲ追加ス

明治三十四年一月十七日

大藏大臣子爵渡邊國武

○司法省訓令第一號

監獄醫ノ作為スヘキ死亡診斷書死體檢案書並監獄醫又ハ產婆ノ在監人ニ對シ作為スヘキ死産證書死胎檢案書ノ記載事項及其様式ハ明治三十三年九月內務省令第四十一號同年十月內務省訓令第二十八號ノ規定ニ準據セシメラルヘシ

但死亡者ノ職業及死産ニ於ケル母ノ職業ハ囚人、刑事被告人、別房留置人、懲治人、搜帶乳兒ノ別及就役者ハ其死前ニ執リタル作業ノ名ヲ非就役者ハ其非就役ナル旨ヲ記載シ死亡者家計ノ主ナル職業ハ之ヲ記載スルニ及ハス

明治三十四年一月十八日

司法大臣男爵金子堅太郎

○農商務省訓令第一號

相續人曠缺ノ爲メ國庫ニ歸屬シタル財産中森林原野ハ明治三十三年勅令第四百九號ニ依リ其引渡ヲ受ケタル地方行政官廳ニ於テ遲滞ナク地籍所管ノ大林區署ニ引渡スヘシ
地籍所管ノ大林區署ハ地方行政官廳ヨリ森林原野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク臺帳ニ登錄スヘシ

明治三十四年一月十九日

農商務大臣林 有造

○內務省訓令第二號

警察監獄學校生徒旅費支給規則左ノ通相定ム

警察監獄學校

明治三十四年二月七日

內務大臣文學博士男爵末松謙澄

警察監獄學校生徒旅費支給規則

第一條 東京市以外ニ在ル官廳ノ推薦ニ係ル生徒ニハ其ノ官廳ト學校トノ間ニ於ケル直路ノ里程ヲ計算シ出京及歸路ノ旅費ヲ支給ス但生徒在學中ハ日當及宿泊料ヲ支給セズ

第二條 前條ノ場合ニ於テ日數ヲ計算スルニハ內國旅費規則第十三條ニ據ル

第三條 一種生ハ內國旅費規則別表四等ノ額二種生ハ警察官吏其ノ他內國旅費概則甲號表ノ額ヲ支給ス

第四條 出京及歸路ノ旅費ハ各別ニ之ヲ支給ス

第五條 生徒在學中退校ノモノハ警察監獄學校校則第七條ノ場合ヲ除クノ外歸路ノ旅費ヲ支給セズ

第六條 本則ニ定ムル外旅費支給ニ關シテハ總テ內國旅費規則ニ據ル

○內務省訓令第四號

天台宗寺門派

其宗長兼山科祐玉死去ニ付後任管長就任ニ至ル迄ノ間聖護院門跡兼園城寺寺中法明院住職權大僧正直林寬真ヲシテ崇制寺法ニヨリ管長ノ事務ヲ取扱ハシム

明治三十四年二月二十七日

內務大臣文學博士男爵末松謙澄

○大藏省訓令第二號

府縣 沖繩縣

罹災救助基金決算年度末現在高表三十二年九月十六日當省訓令第六十五號ノ書式ニ準シ毎年十二

月一日迄ニ當省へ進達スヘシ

但三十二年度分ハ本年二月二十日迄ニ進達スヘシ

明治三十四年二月二日

大藏大臣子爵渡邊國武

北海道廳 府縣

○文部省訓令第一號

學事年報取調條項及諸表様式別冊ノ通定ム

明治二十八年文部省訓令第三號ハ廢止ス

明治三十四年二月十二日

文部大臣松田正久

(別冊)

學事年報取調條項

一管内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ記述スヘシ

一學齡兒童

就學ニ關スル規則施行ノ狀況ヲ記述スヘシ

一小學校

學校ノ設備、編制、修業年限及補習科ニ關スル狀況、公立學校ノ配置適否ノ狀況、代用私立學校ノ狀況、教員ノ需要供給及待遇ノ狀況ヲ記述スヘシ

一幼稚園

幼稚園ノ設備、幼兒保育ノ狀況ヲ記述スヘシ

一盲啞學校

學校ノ設備、授業ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況ヲ記述スヘシ

一師範學校

學校ノ設備、教諭助教諭ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者生徒ノ種別、從前ノ職、從前ノ職年中途退學者ニ關スル狀況、生徒卒業後ノ狀況、附屬小學校及小學校教員講習科等ノ狀況ヲ記述スヘシ

一中學校

學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者從前ノ職、從前ノ職年中途退學者ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

一高等女學校

學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者從前ノ職、從前ノ職年中途退學者ニ關スル狀況、技藝專修科、補習科、專攻科ノ狀況ヲ記述スヘシ

一專門學校

一實業學校

學校ノ設備、入學者從前ノ職、從前ノ職年中途退學者ニ關スル狀況ヲ記述シ又實業學校ニ在リテハ學校ト實業トノ關係ヲ記述スヘシ

一各種學校

學校ノ設備、授業ノ狀況ヲ記述スヘシ

一圖書館

閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類及其ノ閱覽人ヲ各別ニ記述スヘシ

一學校衛生

學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體検査ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ

一教員檢定及講習

小學校教員檢定及講習ノ狀況ヲ記述スヘシ

- 一 教科用圖書
 - （教科用圖書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ）
- 一 府縣會、郡會及市町村會
 - （學事ニ係ル編等ノ概況ヲ記述スヘシ）
- 二 教育會
 - （組織並ニ事業ノ概況ヲ記述スヘシ）
- 一 學事關係職員及學事視察
 - （學事關係職員ノ狀況等ヲ記述シ又府縣視學官、同視學、郡視學等ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述スヘシ）
- 一 學事獎勵
 - （學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ）
- 一 將來學事施設上須要ノ件
 - （以上ノ外學事ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ）
- 右諸項ハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度六月二十日限申報スヘシ
- 一 公學費及資産
 - （公立學校等ノ歲出入、學校基本財産及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ）
- 一 教育資金
 - （教育資金使途ノ狀況ヲ記述スヘシ）
- 一 市町村立小學校教員加俸資金
 - （市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸ヲ給與シタル狀況ヲ記述スヘシ）
- 以上ノ外學事經濟上ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ
- 右諸項ハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度十二月三十日限申報スヘシ
- 本取調條項中表式アルモノハ表式ニ示ス事項ノ計數増減ノ事由ヲ各別ニ記述スヘシ

本令ニ統計年度トアルハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ云フ
 明治 年度 管内學事年報甲號表

一 第一學事統計表

種別	學 齡		兒 童											
	者		既 就 學 始 期 二 途 ン						未 就 學 始 期 二 途 ン					
	計		合 計		免 除		預 備		猶 未		合 計		合 計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
何市														
何市														
何市														
何市														
何市														
何市														
町														
村														
計														

中華民國三十四年二月一日 內令 文部省第一號 學年報格式

校																										
日		數均平童兒席出						者												業					卒	
市立		私立			市立			補習		高等		補習		尋常		尋常		尋常		尋常		尋常				
男女		男女		男女		男女		私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立			

明治三十四年二月一日 內令 文部省第一號 學年報格式

學																											
童					兒					學					入					童					兒		
高		尋			補習			高		高		補習		尋常		尋常		尋常		尋常		尋常		尋常		尋常	
私立		市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	私立	市立	
男女		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

種別	幼稚園												盲啞學						平均數				
	保		幼		保		學		教		徒		生		者		業		卒		私立	平均數	
	育		兒		滿		員		校		期		兒		滿		期		缺			高等	平均數
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男
道																							
府																							
縣																							
立																							
市																							
立																							
町																							
村																							
立																							
私																							
立																							
計																							

二 第二學事統計表														
種別	備考													
	小		學		校		類		各		種		校	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
道														
府														
縣														
立														
市														
立														
町														
村														
立														
私														
立														
計														

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表樣式

學																	
小 國 附												業 者					
童 兒				教 員		其 他		導 訓				保 姆 講 習 科	教 員 講 習 科	豫 備 科			
高 等		尋 常		高 等	尋 常	專 科 正 教 員		本 科 正 教 員									
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

師 範																	
卒		者 學 入				者 願 志 學 入				徒							
簡 易 科	本 科	保 姆 講 習 科	教 員 講 習 科	豫 備 科	簡 易 科	本 科	保 姆 講 習 科	教 員 講 習 科	豫 備 科	簡 易 科	本 科	保 姆 講 習 科	教 員 講 習 科	豫 備 科	簡 易 科		
																女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表樣式

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表格式

等 高													校 學 中											種 別
徒 生				員 教				卒 業 者			入 學 者			入 學 志 願 者			生 徒			教 員				
專 科		補 習 科		技 藝 專 修 科		本 科		無 資 格		有 資 格		校			校			校			校			
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
																							道	
																							府	
																							立	
																							郡	
																							立	
																							市	
																							立	
																							町	
																							村	
																							立	
																							私	
																							立	
																							計	

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表格式

校																					
園 稚 幼 園 附			校 學																		
保 育 備 期		幼 兒	保 姆		平 均 數	席 位 數	日 々 缺	平 均 數	席 位 數	日 々 出	看 養 者			卒 業 者			兒 童		入 學		
高 等		尋 常		高 等		尋 常		高 等		尋 常		看 養 者			卒 業 者			兒 童		入 學	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表樣式

門																													
理						學						文						學 濟 經 學 律 法 學											
入學志願者		生 徒		教 員		學 校		卒 業 者		入 學 者		入 學 志 願 者		生 徒		教 員		學 校		卒 業 者		入 學 者		入 學 志 願 者		生 徒			
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

專																女 學 校									
治 政		學 農		學 醫		學 教		者 業 卒		者 學 入		者 願 志 學 入		者 願 志 學 入		者 願 志 學 入		者 願 志 學 入		者 願 志 學 入					
員		者		徒		員		者		者		者		者		者		者		者					
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男				

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表樣式

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學年報諸表様式

業															
校 學															
業 卒				者 入								者			
甲				種 乙		種 甲						種 乙			
補習科	別科	課科	本科	別科	本科	專攻科	補習科	別科	課科	本科	別科	本科	別科	本科	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學年報諸表様式

業 農															
願 志 學 入															
種 甲				種 乙		種 甲								員	
專攻科	補習科	別科	課科	本科	別科	本科	專攻科	補習科	別科	課科	本科	別科	本科		
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報附表樣式

學															
種															
卒				入								志願者			
種 甲				種 乙				種 甲				種 乙			
專攻科		豫科		本科		專修科		本科		專修科		專攻科		豫科	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報附表樣式

商															
種															
入				徒 生								教 員			
種 甲				種 乙				種 甲				種 乙			
豫科		本科		專修科		本科		專修科		專攻科		豫科		本科	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

明治三十四年三月 訓令 文部省第一號 學事年報附錄第五

業 實										校 學 弟 徒										者 業	
醫 補 業 農					校 學 醫 補 業 工					本 業 者	入 學 者	入 學 志 願 者	生 徒	教 員	學 校	種 乙 專 修 科	種 乙 本 修 科				
生 徒	教 員	學 校	卒 業 者	生 徒	教 員	學 校	女	男	女									男	女	男	女

二七

明治三十四年三月 訓令 文部省第一號 學事年報附錄第六

校 學 船 岡															校		者 業						
甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙	種 甲	種 乙		
																						專 修 科	本 修 科

二六

中學校 二類ス	校																		
	校																		
	校學習補船商				校學習補業商				校學習補產水				校學						
教 員	學 徒	卒 業 者	校	卒 業 者	生 徒	教 員	學 徒	卒 業 者	生 徒	教 員	學 徒	卒 業 者	生 徒	教 員	學 徒	卒 業 者	校	卒 業 者	校

明治 年度 管内學事年報乙號表

一 學級別市町村立私立小學校表

備考	館書圖			校 學 種 各															
	開 館 日 數	開 館 人 員	館 數	校 各 種 學			其 他			校 各 種 學			高 等 女 校			學 校			
				卒 業 者	生 徒	教 員	卒 業 者	生 徒	教 員	卒 業 者	生 徒	教 員	卒 業 者	生 徒	教 員	卒 業 者	生 徒		
																		女	男

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報附表様式

種 別	年 級											備 考	
	一 年 級	二 年 級	三 年 級	四 年 級	五 年 級	六 年 級	七 年 級	八 年 級	九 年 級	十 年 級	十 一 年 級		十 二 年 級
市町村立													
私 立													
合 計													
尋常小學校													
高等小學校													
小學校													
高等小學校													

種 別	年 級											備 考	
	一 年 級	二 年 級	三 年 級	四 年 級	五 年 級	六 年 級	七 年 級	八 年 級	九 年 級	十 年 級	十 一 年 級		十 二 年 級
市町村立													
私 立													
合 計													
尋常小學校													
高等小學校													
小學校													
高等小學校													

備考	合計	英語	手工農樂商業		農業商業		手工農樂		手工農樂												
			私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立											
			市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立												
種別	月	九	八	七	六	三市町村立小學校教員俸給別表															
						本科正教員		准教員		專科正教員		本科正教員		准教員		專科正教員					
						高等		高等		高等		高等		高等		高等					
						中等		中等		中等		中等		中等		中等					
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

別	額												俸														
	三十五圓		三十圓		二十七圓		二十四圓		二十二圓		二十圓		十八圓		十六圓		十四圓		十三圓		十二圓		十一圓		十圓		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	

明治三十四年二月 訓令 文部省第一號 學事年報諸表様式

六 小學校教員檢定及免許狀授與人員表

種別	檢出者		檢定者		免許狀授與人員	
	無試驗	試驗合格	無試驗	試驗合格	計	計
	計	計	計	計	計	計
正教員	小學校本科		正教員		正教員	
	女	男	女	男	女	男
准教員	尋常小學校		正教員		正教員	
	女	男	女	男	女	男
准教員	小學校准教員		正教員		正教員	
	女	男	女	男	女	男
合計	計		計		計	
	女	男	女	男	女	男
備考	同上ノ内學校ニ於テ修業スル者					
	男	女	計	計	計	計

七 學齡兒童中盲聾者表

種別	盲者		聾者	
	男	女	男	女
合計	計		計	
	男	女	男	女
備考	同上ノ内學校ニ於テ修業スル者			
	男	女	計	計

種別	小學校		中學校		高等女學校		專門學校		實業學校		徒弟學校		各種學校		合計			
	員	年	員	年	員	年	員	年	員	年	員	年	員	年	員	年		
合計	計		計		計		計		計		計		計		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
備考	同上ノ内學校ニ於テ修業スル者																	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女